

●●● I. 研究プロジェクト ●●●

森林生物圏部門

●科学研究費

徳地直子：基盤研究(B)(2)「森林生態系の炭素・窒素蓄積メカニズムの解明とその潜在的炭素・窒素蓄積量の推定」.

徳地直子：基盤研究(B)(2)「渓流水質形成メカニズムのモデル化による森林の環境影響評価法の構築」(分担).

徳地直子：基盤研究(C)「大学演習林を核にした『ラージスケール生態系動態解析システム』構築のための企画調査(分担).

坂野上なお：基盤研究(A)(1)「木造建築物文化財の修理用資材確保に関する研究」(分担).

中島 皇：基盤研究(A)「流域生態圏における水・熱・物質循環の長期変動モニタリングと広域比較研究」(分担).

●森林生態研究プロジェクト：寄元道德

●森林環境研究プロジェクト：徳地直子

●森林資源共存研究プロジェクト：坂野上なお

●学内研究費

大島誠一：平成14年度教育改善推進費(学長裁量経費)「芦生研究林に発生したミズナラ枯損－現状調査と被害対策－」.

大島誠一：平成15年度教育改善推進費(学長裁量経費)「芦生研究林に発生したミズナラ枯損－現状調査と被害対策－」.

●共同研究

徳地直子：総合地球環境学研究所・研究プロジェクト「流域環境の質と環境意識の関係解明」.

●受託研究

徳地直子：「21世紀の炭素管理に向けたアジア陸域生態系の統合的炭素収支研究」環境省.

徳地直子：「乾燥地における植物の窒素利用に関する研究」鳥取大学乾燥地研究センター.

●各種研究教育助成金

芝 正己：京都大学教育研究振興財団平成15年度第1号事業海外派遣事業(短期派遣)助成.

芝 正己：IUFRO-J IUFRO 国際会議派遣助成.

●奨学寄付金

竹内典之 他：「演習林の研究及び施業運営等の助成」阪本奨学会.

芝 正己：森公弘済会森林研究助成.

徳地直子：河川財団 河川整備基金.

里域生態系部門

●科学研究費

田中 克：基盤研究(A)(2)「有明海スズキとタイリクスズキをめぐる資源生物学と保全生態学の融合」.

田中 克：基盤研究S(近畿大学農学部)「クロマグロの資源増殖に関する生物・生化学的研究」(2002-2007)(分担).

- 田中 克：特別研究員奨励費 (DC1)「仔稚魚消化生理の個体発生：消化管ホルモンの産生動態による解明」(2001-2003)。
田中 克：特別研究員奨励費 (外国人PD)「海産魚類の初期減耗過程：その生化学的解析」(2002-2003)。
山下 洋：基盤研究C「エコフィジオロジーモデルによるヒラメ稚魚成育場機能の南北間比較」。
山下 洋：基盤研究C「DNA分析手法を応用した甲殻類胃内容物分析による放流ヒラメ種苗の食害調査」(分担)。
山下 洋：基盤研究A「有明海スズキとタイリクスズキをめぐる資源生物学と保全生態学の融合」(分担)。
山下 洋：萌芽研究「分子生物学的手法による魚卵・仔魚捕食者の特定と初期減耗研究への試行的適用」(分担)。
山下 洋：学術創成研究「海洋生命系のダイナミクス」(分担)。
柴田昌三：基盤研究(A)(一般)生態系ミティゲーションにおけるHEPの開発(分担)。
益田玲爾：若手研究「魚類の学習能力および攻撃行動におよぼすドコサヘキサン酸の影響」。
益田玲爾：学術創成研究「海洋生命系のダイナミクス」(分担)。
田川正朋：基盤研究(C)(2)「カレイ類変態期の眼の移動－甲状腺ホルモンによる左右非対称な形態形成機構」。
田川正朋：学術創成研究(東京大学海洋研究所)「海洋生命系のダイナミクス」(2001-2004)(分担)。
上野正博：萌芽的研究「シズクガイをモデルにしたベントス個体群動態解析への分子遺伝学的手法の適用」(分担)。
中山耕至：萌芽研究「分子生物学的手法による魚卵・仔魚捕食者の特定と初期減耗研究への試行的応用」。

●共同研究

- 中西麻美：総合地球環境学研究所・研究プロジェクト「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史モデルの構築」。

●受託研究

- 田中 克・中山耕至：「生態系保全型増養殖システム確立のための種苗生産・放流技術の確立」独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所。
田中 克：「平成15年度日本周辺高度回遊性魚類資源調査」独立行政法人水産総合研究センター。

●奨学寄附金

- 山下 洋：「魚類成育場の構造と機能に関する研究助成」(財)漁港漁村建設技術研究所(2003)。

基礎海洋生物学部門

●科学研究費

- 白山義久：学術創成研究費「海洋生命系のダイナミクス」(分担)。
白山義久：特別研究員奨励費「日本産淡水コケムシ(外肛動物門・被喉綱)の分子系統解析」(分担)。
白山義久：特別研究員奨励費「田辺湾沿岸生態系におけるメイオ及びマクロベントス群集のエネルギー収支」(分担)。
和田 洋：基盤研究(C)(2)「ナガウニ科ウニの幼生骨格多様性の進化に関する総合的研究」。
和田 洋：特定領域研究(2)「神経冠進化の分子メカニズムの解明」。
宮崎勝己：基盤研究(C)(1)「節足動物の卵巣形態および卵形成様式の多様性と進化に関する研究」。

●受託研究

- 白山義久：「海洋生物に及ぼす二酸化炭素の影響に関する室内実験」財団法人地球環境産業技術研究機構。
白山義久：「インドネシア・タイにおける海産無脊椎動物の分類学的研究」独立行政法人国立環境研究所。
和田 洋：「脊椎骨形成の制御遺伝子ネットワークの系統発生的解析」科学技術振興事業団 戦略的創造研究推進事業 さきがけ研究21「認識と形成」。

●奨学寄付金

白山義久：「NAGISAプロジェクト」アラスカフェアバンクス大学.

和田 洋：「ホヤ，ナメクジウオに探る神経冠の起源と進化」加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 研究助成金(A).

●●● II. 研究成果 ●●●

II-1 著書

森林生物圏部門

■森林生態保全学分野

徳地直子：集水域からの流出。生態学辞典，菊澤喜八郎 他 編著，2002.

■森林資源管理学分野

竹内典之：日本の森林資源，「木造都市の設計技術」(小林正美 編)，コロナ社：1-28，2003.

■森林環境情報学分野

Shiba, M.: FORESTS IN SUSTAINABLE MOUNTAIN DEVELOPMENT STATE OF KNOWLEDGE REPORT FOR 2000 (Ed. M.F. Price and N. Butt). Case study: Quantitative analysis of fragmented landscape patterns resulting from timber harvesting practices in the Kyoto University Forests Japan. CABI International Publishing, London: 211-215, 2000.

大田伊久雄・梶原 晃・白石則彦・奥野 剛・尾張敏章・芝 正己・杉森正敏・富村周平・檜崎達也・西山泰三・廣嶋卓也・福田 淳：森林ビジネス革命(第6章：環境と経済の両立，第7章：持続可能な林業への私有林所有者の参入機会)，築地書館：129-181，2002.

里域生態系部門

■里山資源保全学分野

柴田昌三：タケ，小方宗次・柴田昌三 共著「ネコとタケ」(現代日本生物誌9)：67-160，160pp，岩波書店，2001.

柴田昌三：里山におけるミティゲーション，「ミティゲーション - 自然環境の保全・復元技術 -」(森本幸裕・亀山 章 編)：56-77，ソフトサイエンス社，2001 (分担執筆).

柴田昌三：里山再生と竹林，京都大学地球環境学研究会著「地球環境学のすすめ」：217-233，丸善株式会社，2004 (分担執筆).

西村和雄：「ぐうたら農法のすすめ」，富士通経営研修所，2001.

西村和雄：「新ぐうたら農法のすすめ」，人類文化社，2001.

■里地生態保全分野

梅本信也・種坂英次：「紀伊大島きのかガイド」，コスミック印刷，京都：54p，2000.

梅本信也・山口裕文：田舟と撻斗と龍船と，「照葉樹林文化論の現代的展開」(金子 努ら編)．北大図書刊行会，札幌：315-334，2001.

梅本信也・山口裕文・姚 雷：照葉樹林帯における一年生雑草の半栽培の風景，「照葉樹林文化論の現代的展開」(金子 努ら編)，北大図書刊行会，札幌：513-528，2001.

山河重弥：栄養繁殖器官に関する調査法，「雑草科学実験法 第1章 第2節 第5項」(日本雑草会編)：57-62，2001.

梅本信也：形態などのin vivo形質における変異解析，「雑草科学実験法 第1章 第1節 第3項 雑草の種内変異実験法」(日本雑草学会編)：18-21，2001.

山口裕文・王 旻・梅本信也：中国の稲作とヒエ属植物，「ヒエという植物」(藪野友三郎 監修)，全国農村教育協

会：102-112, 2001.

梅本信也：「紀州里域植物方言集」, プレスネット印刷, 長岡京市：194p, 2002.

梅本信也：フィールド・ワーク, 「資源生物科学概論」(京大農学部資源生物科学科編), ショウワドウ・イープレス株式会社：270-271, 2003.

梅本信也：「紀伊大島フィールド・ガイドー自然編ー」, ユニバース印刷, 長岡京市：52p, 2003.

山口裕文・梅本信也：2003. 東アジアの栽培ヒエとひえ酒への利用, 「雑穀の自然史ーその起源と文化を求めてー」(山口裕文・河瀬真琴 編), 北大図書刊行会：101-113, 2003.

■河口域生態学分野

田中 克：有明海のスズキー雑種起源の特異な個体群, 「有明海の生きものたち」(佐藤正典 編), 海遊舎：pp.246-247, 2000.

田中 克：川を遡る有明海のスズキ稚魚, 「稚魚の自然史ー千変万化の魚類学」(千田哲資・南 卓志・木下 泉 編)：p.210-221, 北海道図書刊行会, 札幌, 2001.

田中 克：スズキと生物多様性ー水産資源生物学の新展開 (田中 克・木下 泉 編), 水産学シリーズ131, 恒星社厚生閣, 東京：pp.155, 2002.

中山耕至：有明海個体群の内部構造, 「スズキと生物多様性ー水産資源生物学の新展開」(田中 克・木下 泉 編)：p.140-152, 2002.

Secor, D. H., 田中 克：スズキ類の河口域依存性と生活史の進化, 「スズキと生物多様性ー水産資源生物学の新展開」(田中 克・木下 泉 編)：p.140-152, 2002.

平井慈恵：浸透圧調節生理, 「スズキと生物多様性ー水産資源生物学の新展開」(田中 克・木下 泉 編)：p.103-113, 2002.

日比野学：有明海産スズキの初期生活史にみられる多様性, 「スズキと生物多様性ー水産資源生物学の新展開」(田中 克・木下 泉 編)：p.65-78, 2002.

太田大郎：耳石による回遊履歴追跡, 「スズキと生物多様性ー水産資源生物学の新展開」(田中 克・木下 泉 編)：p.91-102, 2002.

■沿岸資源管理学分野

林 勇夫・上野正博：水圏バイオマス資源, 「バイオマス・エネルギー・環境」(坂 志郎 編著), アイビーシー刊：133-147, 2001.

基礎海洋生物学部門

■海洋生物系統分類学分野

久保田信：刺胞動物門, 「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編), 裳華房, 東京：pp.108-111, 2000.

久保田信：有櫛動物門, 「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編), 裳華房, 東京：pp.113-115, 2000.

久保田信：有櫛動物と刺胞動物の関係, 「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編), 裳華房, 東京：pp.116-117, 2000.

山田真弓・久保田信：ヒドロ虫類, 「動物系統分類学 追補版」(山田真弓 監), 中山書店, 東京：pp.54-58, 2000.

山田真弓・久保田信：箱虫類, 「動物系統分類学 追補版」(山田真弓 監), 中山書店, 東京：pp.59-61, 2000.

山田真弓・久保田信：羽水母類, 「動物系統分類学 追補版」(山田真弓 監), 中山書店, 東京：pp.62-63, 2000.

■海洋生物多様性保全学分野

- 白山義久：袋形動物，「動物系統分類学 追補版」(山田真弓 監)，中山書店，東京：pp.115-124，2000.
- 白山義久：胴甲動物，「動物系統分類学 追補版」(山田真弓 監)，中山書店，東京：pp.125-129，2000.
- 白山義久：有輪動物，「動物系統分類学 追補版」(山田真弓 監)，中山書店，東京：pp.149-156，2000.
- 白山義久：顎口動物，「千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物」(千葉県史料研究財団 編)，千葉県史料研究財団，千葉：pp.181，2000.
- 白山義久：腹毛動物，「千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物」(千葉県史料研究財団 編)，千葉県史料研究財団，千葉：pp.182-183，2000.
- 白山義久：輪形動物，「千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物」(千葉県史料研究財団 編)，千葉県史料研究財団，千葉：pp.184-185，2000.
- 白山義久：動吻動物，「千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物」(千葉県史料研究財団 編)，千葉県史料研究財団，千葉：pp.186-187，2000.
- 白山義久：線形動物，「千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物」(千葉県史料研究財団 編)，千葉県史料研究財団，千葉：pp.189-193，2000.
- 白山義久：鰓曳動物，「千葉県の自然誌 本編7 千葉県の動物2 海の動物」(千葉県史料研究財団 編)，千葉県史料研究財団，千葉：pp.272-273，2000.
- 白山義久(編)：「無脊椎動物の多様性と系統」，裳華房，東京：327pp，2000.
- 白山義久：総合的観点からみた無脊椎動物の多様性と系統，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.2-46，2000.
- 白山義久：紐形動物は真体腔動物らしい？，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：p.130，2000.
- 白山義久：腹毛動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.131-133，2000.
- 白山義久：線形動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.142-145，2000.
- 白山義久：動吻動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.148-150，2000.
- 白山義久：胴甲動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.151-153，2000.
- 白山義久：いわゆる袋形動物の系統関係，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.157-158，2000.
- 白山義久：有輪動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.224-226，2000.
- 上原 剛・白山義久：平板動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.100-101，2000.
- 重中義信・白山義久：原生動物亜界，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.74-88，2000.
- 鈴木 實・白山義久：輪形動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.134-136，2000.
- 三浦知之・白山義久：有鬚動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.199-202，2000.
- 三浦知之・白山義久：環形動物門，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.203-211，2000.
- 三浦知之・白山義久：体節性の発達と役割，「無脊椎動物の多様性と系統」(白山義久 編)，裳華房，東京：pp.214-215，2000.
- 白山義久：まだまだ見つかる新しい生物，「海の生き物100不思議」(東京大学海洋研究所 編)，東京書籍，東京：pp.194-195，2003.
- 白山義久：海には何種類の生き物がいるの？，「海の生き物100不思議」(東京大学海洋研究所 編)，東京書籍，東京：pp.196-197，2003.
- 白山義久・小島茂明：深海の環境問題，「海の生き物100不思議」(東京大学海洋研究所 編)，東京書籍，東京：pp.214-215，2003.

- 白山義久：線虫の世界，「線虫の生物学」(石橋信義 編)，東京大学出版会，東京：pp.3-11，2003.
- 白山義久：海洋・干潟の線虫，「線虫の生物学」(石橋信義 編)，東京大学出版会，東京：pp.75-83，2003.
- 大垣俊一・田名瀬英朋：内湾における底生生物(ウニ類)の個体数密度，「理科年表(環境編)」，丸善，東京：p.267，2003.

II-2 学協会誌等(原著論文，総説等，Proceedings等)

森林生物圏部門

■森林生態保全学分野

- Hirayama, Kimiko, Michinori Sakimoto: Spatial distributions of canopy and subcanopy species along a sloping topography in a cool-temperate conifer-hardwood forest in the snowy region of Japan. *Ecological Research* 18: 443-454, 2003.
- Hirayama, Kimiko, Michinori Sakimoto: Regeneration of *Cryptomeria japonica* on a sloping topography in a cool-temperate mixed forest in the snowy region of Japan. *Canadian Journal of Forest Research* 33: 543-551, 2003.
- Ohte, N., Tokuchi, N., Katsuyama, M., Hobara, S., Asano, Y., Koba, K.: Episodic increases in nitrate concentrations in streamwater due to the partial dieback of a pine forest in Japan: runoff generation processes control seasonality. *Hydrological Processes* 17: 237-249, 2003.
- Hirobe, M., Tokuchi, N., Wachrinrat, C. and Takeda, H.: Fire history influences on the spatial heterogeneity of soil nitrogen transformation in three adjacent stands in a dry tropical forest in Thailand. *Plant and Soil* 249(2): 309-318, 2003.
- Hirobe, M., Koba, K., Tokuchi, N.: Dynamics of the internal soil nitrogen cycles under moder and mull forest floor types on a slope in a *Cryptomeria japonica* D. Don plantation. *Ecological Research* 18(1): 53-64, 2003.
- Koyama, L. and Tokuchi, N.: Effects of NO_3^- availability on NO_3^- use in seedlings of three woody shrub species. *Tree Physiology* 23(4): 281-288, 2003.
- Kim, Su-Jin, Ohte, N., Kawasaki, M., Katsuyama, M., Tokuchi, N. and Hobara, S.: Interactive responses of dissolved sulfate and nitrate to disturbance associated with pine wilt disease in a temperate forest. *Soil Science and Plant Nutrition* 49(4): 539-550, 2003.
- Koba, K., Hirobe, M., Koyama, L., Khozu, A., Tokuchi, N., Nadelhoffer, K., Wada, E. and Takeda, H.: Natural ^{15}N abundance of plants and soil N in coniferous temperate forest. *Ecosystems* 6(5): 457-469, 2003.
- 枚田邦宏・大島誠一・中島 皇：大学演習林の森林教育活動。－公開講座参加者アンケート調査結果－。森林応用研究 9：105-109，2000.
- Ris Hadi Purwanto and Oohata, S.: Estimation of the biomass and net primary production in a planted teak forest in Madium, East Java, Indonesia. *Forest Research, Kyoto* 74: 59-68, 2002.
- 山本牧子・玉井重信・徳地直子・山中典和：施肥がヤナギ属4種の挿し木苗の成長に及ぼす影響。緑化工学会誌，2003.
- 松村光子・大手信人・小杉緑子・徳地直子・高梨 聡・松尾奈緒子・勝山正則：ヒノキ人工林における土壌-植物間の無機態窒素の移動プロセス。緑化工学会誌 29-1：301-304，2003.
- 寄元道徳・平山貴美子：スギ若木のモジュールの形態，構造及び動態。－林冠ギャップ下と閉鎖林冠下の比較－。森林研究 74：53-58，2002.
- 森下和路・寄元道徳：林冠部の違いに対する生育形の異なる低木3種(クロモジ，タンナサワフタギ，ツリガネツツジ)の地上部形態の応答。森林研究 75：1-9，2003.

■森林資源管理学分野

戸田浩人・安藤 信 他：全国大学演習林における渓流水質. 日林誌 82(3)：308-312, 2000.

大澤篤弘・安藤 信・中根勇雄・登尾久嗣・川那辺三郎：スギが混交する冷温帯若齢天然生林の保育技術(I) - 除伐後16年間の林分構造の推移 - . 森林応用研究 10-1：51-54, 2001.

高橋絵里奈・竹内典之：奈良県川上村上多古及び高原における高齢スギ人工林の現状と今後の施業指針, 森林研究 73：59-66, 2001.

森下和路・安藤 信：京都市市街地北部森林のマツ枯れに伴う林相変化. 森林研究 74：35-45, 2002.

嶋田俊平・竹内典之：針広混交林化したヒノキ不成績造林地の成長解析 - 京都府美山町の24年生ヒノキ人工林を事例として - . 森林研究 75：11-17, 2003.

Yoshinori Shimizu, Makoto Ando and Fukumi Sakai: RAPD Marker Diversity Within and Among Natural Populations of Clonal Tree *Cryptomeria japonica* D. Don. Journal of Sustainable Forestry, 15(3): 75-90, 2002.

Yoshinori Shimizu, Makoto Ando and Fukumi Sakai: Clonal structure of natural population of *Cryptomeria japonica* growing at different position on slopes, detected RAPD markers. Biochemical systematics and ecology, 30: 733-748, 2002.

Christopher J. Williams, Ben A. Le Page, David R. Vann, Takeshi Tange, Hiroyuki Ikeda, Makoto Ando, Tomoko Kusakabe, Hayato Tsuzuki and Tatsuo Sweda: Structure, allometry, and biomass of plantation *Metasequoia glyptostroides* in Japan. Forest Ecology and Management, 180: 287-301, 2003.

坂野上なお：住宅用構造材に求められる品質はどのように変化したか - 住宅生産システムの合理化と共に - . 林業経済 633：1-14, 2001.

Erina Takahashi and Michiyuki Takeuchi: Coefficient of Variation of the Diameter Distribution in sugi (*Cryptomeria japonica*) Plantation in Yosino, Proc. Int. Seminar on new roles of Plantation Forestry Requiring Appropriate Tending and Harvesting Operations (IUFRO International Seminar 2002 Japan): 429-437, 2003.

■森林環境情報学分野

芝 正己：森林認証制度の研究的課題, 森林計画学会誌 34：115-126, 2000.

早川博人・石川知明・芝 正己：森林作業単位としての森林パッチ形状の事例解析 - 滋賀県全域の林小班を対象として - . 中部森林研究 49：141-142, 2000.

芝 正己：森林認証・ラベリング制度の国際的動向と今後の研究的課題. 森林研究 72：45-56, 2000.

吉幸 朗・芝 正己・石川知明：SFM (Sustainable Forest Management) を志向した人工林収穫計画のシミュレーション解析. 森林研究 74：139-148, 2002.

石川知明・石堂慶彦・山崎忠久・芝 正己・万木 豊：ボランティアのための間伐材簡易搬出法の開発, 森林利用学会誌 18：259-262, 2004.

芝 正己：FSC森林認証・CoC制度の展開と森林管理・林業生産活動への影響, 森林利用学会誌 18：263-266, 2004.

里域生態系部門

■里山資源保全学分野

森本淳子・柴田昌三・長谷川秀三・井上富実香：二次林へ導入した野生ツツジ類の初期成長 - 直播き, ポット苗植栽, 自生苗の移植の可能性 - . 日本緑化工学会誌 25(4)：333-338, 2000.

大藪崇司・柴田昌三・新畑 学・森本幸裕・小橋澄治：全国10ヶ所のモデル擁壁を用いた緑化に関する実験的研究. 日本緑化工学会誌 25(4)：355-360, 2000.

- SHIBATA Shozo: Expansion of monopodial type dwarf bamboo, *Shibataea kumasaca* (Zollinger) Nakai, planted on a man-made cut slope. Proceedings International Bamboo Symposium in Chaingmai, Thailand: 70-80, 2000.
- 武田一夫・柴田昌三・竹内典之・水島達朗：ミヤコザサによる寒冷地の道路法面緑化に関する研究(I) ミヤコザサの植栽後2年間の成長と環境条件の影響。日本緑化工学会誌 26(2)：117-126, 2000.
- KOMIYA Motoaki, SHIBATA, Shozo, KANZAKI Mamoru, WATANABE Hiroyuki, SANG Phan Minh and NAM Vu Thanh: Aboveground biomass of bamboo (*Dendrocalamus membranaceus*) stands in two major production areas in North Vietnam. Applied Forest Science 10(1): 55-61, 2001.
- SHIBATA Shozo: Bamboo cultivation and management in Japan. Proceedings International Seminar on Bamboo Cultivation, Processing and Utilization: 21-29, 2001.
- SAKAI Hiroyuki, SHIBATA Shozo and ANDO Yoichi: Orthogonal acoustical factors of a sound field in a bamboo forest. J. Acoust. Soc. Am. 109(6): 2824-2830, 2001.
- 境慎二郎・柴田昌三：のり面緑化における鳥類の種子散布に関する予備的研究 -人工とまり木と疑似餌による鳥類の誘因効果について-。日本緑化工学会誌 27(1)：351-354, 2001.
- 大藪崇司・柴田昌三・新畑 学・森本幸裕・小橋澄治：擁壁緑化における4樹種の生育評価 -植栽後3年の気象要因の影響-。日本緑化工学会誌 28(1)：61-66, 2002.
- SHIBATA Shozo: Flowering of *Phyllostachys pubescens* Mazel ex Houzeau Lehaie in the sixty-seventh year, and germination of caryopses produced at Kamigamo, Kyoto University Forests, Japan. Proceedings 5th International Bamboo Congress: 345-365, 2002.
- SHIBATA Shozo, IWANAGA Yasumasa, KAMIMURA Keiya and HAMADA Hajime: Revegetation of roadside manmade slopes with Karami fencing and burying *Bambusa multiplex* (Lour.) Raeushel culms. Proceedings International Workshop on the Role of Bamboo in Disaster Avoidance, http://www.inbar.int/publication/txt/INBAR_PR_11.html: 3-11, 2002.
- KOSUGI Yoshiko, SHIBATA Shozo and KOBASHI Sumiji: Parameterization of the CO₂ and H₂O gas exchange of several temperate deciduous broad-leaved trees at the leaf scale considering seasonal changes. Plant. Cell and Environment 26: 285-301, 2003.
- 柴田昌三：モウソウチクと日本人。日本緑化工学会誌 28(3)：406-411, 2003.
- 鈴木悠里・柴田昌三・田中和博・酒井徹朗：京都市市街地北部地域における活力度が高い樹木葉の色彩の評価。日本緑化工学会誌 29(1)：68-73, 2003.
- 森本淳子・柴田昌三・長谷川秀三：野生ツツジ2種の種子発芽と実生の生育立地要求性 -直播きによる野生ツツジ群落復元実験-。日本緑化工学会誌 29(1)：135-140, 2003.
- 柴田昌三：緑化植物としてのササ類の特性とその利用。芝草研究 32(別2)：52-63, 2003.
- 森本淳子・柴田昌三・長谷川秀三：野生ツツジ2種の地域性種苗の生産技術。日本緑化工学会誌 29(2)：360-366, 2003.
- 戸田浩人・笹賀一郎・中西麻美・西村和雄 他：全国大学演習林における渓流水質。日本林学会誌 82(3)：308-312, 2000.
- Nakanishi, A., Shibata, H., Inokura, Y., Nakao, T., Toda, H., Sato, F., and Sasa, K.: Chemical characteristics in stem flow of Japanese cedar in Japan. Water Air and Soil Pollution 130(1-4): 308-312, 2001.
- Hobara, S., Tokuchi, N., Ohte, N., Koba, K., Katsuyama, M., Kim, S., and Nakanishi, A.: Mechanism of nitrate loss from a forested catchment following a small-scale, natural disturbance. Canadian Journal of Forest Research 31(8): 1326-1335, 2001.
- Tokuchi, N., Nakanishi, A., Wachiringrat, C., and Takeda, H.: Soil N fluxes in three contrasting dry tropical forests. The Scientific World 1(S2): 534-538, 2001.
- 牧野亜友美・森本淳子・柴田昌三・大澤直哉・中西麻美：都市近郊二次林における小面積伐採直後の木本植生の多様性

- の変化. 日本緑化工学会誌 28(1) : 286-289, 2002.
- 上村恵也・柴田昌三: 自生ササ類の地下茎を用いたのり面緑化試験. 日本緑化工学会誌 28(1) : 240-243, 2002.
- 梁川俊晃・柴田昌三・上村恵也・徳永正夫・衣笠斗基子: 表土マット移植工法を用いた法面緑化に関する調査研究. 日本緑化工学会誌 29(1) : 265-268, 2003.
- 寺井裕美・柴田昌三: ミヤコザサの維持と樹木実生の更新にエゾシカの採食が与える影響. 森林研究 74 : 77-86, 2002.
- 中西麻美・平田啓一・中川智之・柴田泰征・大澤直哉・柴田昌三: 上賀茂試験地における湿性降下物と林内雨のイオン濃度および流入量と窒素負荷量. 森林研究 74 : 87-97, 2002.

■里地生態保全分野

- 種坂英次・梅本信也: 岐阜県における野生きのご類の販売と呼称: 特に, 地方名と標準和名の関係について. 日本応用きのご学会誌 8(2) : 83-87, 2000.
- Umemoto, S.: The weed, encouraged weed and crop continuum in *Arthraxon hispidus* (Thunb.) Makino (Gramineae) of volcanic Hachijo Island in the Pacific Ocean. Proc. 18th Asian-Pacific Weed Sci. Soc. Conf. I: 100-104, 2001.
- 梅本信也・山口祐子・伊藤操子: 変種ツルスズメノカタビラの分類学的検討. 芝草研究 30(1) : 1-5, 2001.
- 梅本信也・種坂英次: 紀伊大島スタジイ林の巨大なシイサルノコシカケ. 南紀生物 43(1) : 27-30, 2001.
- 梅本信也・久保田信: 紀伊半島南部におけるハマダイコンの変異. 南紀生物 43(2) : 155-158, 2001.
- 梅本信也・種坂英次・原田 浩: 和歌山県古座川町一枚岩に岩上生する巨大なヘリトリゴケ. 南紀生物 43(2) : 98-101, 2001.
- 石神美智子・梅本信也・中山祐一郎・山口裕文: 栽培および野生コブナグサの出穂と形態的形質に見られる変異. 雑草研究 46(3) : 194-200, 2001.
- 梅本信也・種坂英次: 紀伊大島檜野の魚付林の歴史 - 字黒山および字棹取平三を中心に -. 近畿大学農学部紀要 34 : 165-72, 2001.
- 梅本信也・石神真智子・山口裕文: ミャンマー国シャン高原における陸稲の収穫とタウンヨー族の打ち付け脱穀石. 大阪府立大学大学院農学生命科学学術報告 53 : 37-40, 2001.
- 山河重弥: 花序切除および走出枝切断がオモダカとクワイの塊茎生産に及ぼす影響. 雑草研究 47 : 79-81, 2002.
- 梅本信也・原田 浩: 田辺湾島島の地衣類. 南紀生物 44(1) : 15-18, 2002.
- 伊藤操子・山口祐子・梅本信也: 日本のゴルフ場におけるツルスズメノカタビラの侵入実態. 雑草研究 47(2) : 82-88, 2002.
- 梅本信也・山口裕文: 紀伊大島におけるチガヤおよびススキの利用と保全. 大阪府立大学大学院農学生学術報 54 : 41-47, 2002.
- 梅本信也・種坂英次: 萌芽指数▽ (ナブラ) - 里山の林分をよりの確に理解するために -. 近畿大学農学部紀要 36 : 55-58, 2003.
- Yamaguchi, H. K. Kawata, Y. Nakayama and S. Umemoto.: Establishment of Standard Experimental Strains tagging by Microsatellites in weedy *Echinochloa*. Proc. 19th APWSS Conf: 221-226, 2003.
- 梅本信也・藤井伸二: 水田秋植物 (Autumn paddy ephemeral) に関する一考察. 分類 3 : 47-51, 2003.
- Umemoto, S.: The wild, weed, encourage weed and crop continuum in *Alpinia intermedia* Gagnep. of Zingiberaceae in Kii-Oshima Island, central Japan. Proc. 19th APWSS Conf: 242-246, 2003.

■河口域生態学分野

- Kinoshita, I., T. Seikai, M. Tanaka and K. Kuwamura: Geographic variations in dorsal and anal ray counts of juvenile Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*, in the Japan Sea. *Env. Biol. Fish.*, 57: 305 - 313, 2000.
- Rønnestad, I., R. Pérez Dominguez and M. Tanaka: Ontogeny of diestive tract functionality in Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus* studied by in vivo microinjection: PH and assimilation of free amino acids. *Fish Physiol. Biochem.*, 22: 235, 2000.
- Shoji, J., T. Maehara and M. Tanaka: Managing culture of a completely piscivorous and voracious larvae, Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius*: experimental estimation of daily food consumption. *UJNR Technical Report*, 28: 89 - 95, 2000.
- Jennifer L. Specker, J. Geoffrey Eales, Masatomo Tagawa, and William A. Tyler III: Parr-smolt transformation in Atlantic salmon: Thyroid hormone deiodination in liver and brain and endocrine correlates of change in rheotactic behavior. *Can. J. Zool.*, 78: 696 - 705, 2000.
- Masatomo Tagawa, Keiko Suzuki, and Jennifer L. Specker: Incorporation and metabolism of cortisol in oocytes of Tilapia (*Oreochromis mossambicus*). *J. Exp. Zool.*, 287: 485 - 492, 2000.
- Jin Hyung Yoo, Toshio Takeuchi, Masatomo Tagawa, and Tadahisa Seikai: Effect of thyroid hormones on the stage-specific pigmentation of the Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*). *Zool. Sci.*, 17: 1101 - 1106, 2000.
- Estevez, A., T. Kaneko, T. Seikai, M. Tagawa, M. Tanaka: ACTH and MSH production in Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*) larvae fed arachidonic acid-enriched live prey. *Aquaculture* 192: 309 - 319, 2001.
- Shoji, J., T. Maehara, M. Aoyama, H. Fujimoto, A. Iwamoto, M. Tanaka: Daily ration of Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* larvae. *Fisheries Science* 67: 238 - 245, 2001.
- Kamisaka, Y., G. K. Totland, M. Tagawa, T. Kurokawa, T. Suzuki, M. Tanaka, and I. Ronnestad. Ontogeny of cholecystokinin-immunoreactive cells in the digestive tract of Atlantic halibut, *Hippoglossus hippoglossus*, larvae. *Gen. Comp. Endocrinol.* 123: 31 - 37, 2001.
- Yamashita, Y., M. Tanaka, J. M. Miller: Ecophysiology of juvenile flatfish in nursery grounds. *Journal of Sea Research* 45: 205 - 218, 2001.
- Okada, N., Y. Takagi, T. Seikai, M. Tanaka, and M. Tagawa: Asymmetrical development of bones and soft tissues during eye migration of metamorphosing Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*. *Cell Tissue Res.* 304: 59 - 66, 2001.
- Estevez, A., T. Kaneko, T. Seikai, R. M. Dores, M. Tagawa, M. Tanaka: Ontogeny of ACTH and MSH cells in Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*) in relation to albinism. *Aquaculture* 202: 131 - 143, 2001.
- Hotta, Y., M. Aritaki, M. Tagawa, M. Tanaka: Changes in tissue thyroid hormone levels of metamorphosing spotted halibut *Verasper variegatus* reared at different temperatures. *Fisheries Science* 67: 1119 - 1124, 2001.
- Gwak, W. S. and M. Tanaka: Developmental change in RNA: DNA ratios of fed and starved laboratory-reared Japanese flounder larvae and juveniles, and its application to assessment of nutritonal condition for wild fish. *Journal of Fish Biology* 59: 902 - 915, 2001.
- Tagawa M., C. L. Brown: Entry of thyroid hormones into tilapia oocyte. *Comp. Biochem. Physiol. B* 129: 605 - 611, 2001.
- 堀田又治・有瀧真人・太田健吾・田川正朋・田中 克：ホシガレイの仔稚魚期における消化系の発達と変態関連ホルモンの動態。日本水産学会誌 67(1)：40 - 48, 2001.
- 有瀧真人・太田健吾・堀田又治・田中 克：ホシガレイ飼育仔稚魚の形態発育と成長。日本水産学会誌 67(1)：58 - 66, 2001.
- 堀田又治・有瀧真人・田川正朋・田中 克：水温を変えて飼育したマガレイの変態期における甲状腺ホルモンの動態（短報）。日本水産学会誌 67(6)：1120 - 1121, 2001.
- 堀田又治・有瀧真人・田川正朋・田中 克：ホシガレイの初期生活史：飼育実験による変態・着底過程の解析 栽培技

- 研 29 : 59 - 72, 2001.
- Kellison G. T., D. B. Eggleston, M. Tanaka: Density-dependent predation and implications for stock enhancement with Japanese flounder. *J. Fish Biol.*, 60: 968 - 980, 2002.
- Hossain M. A. R., M. Tanaka, R. Masuda: Predator-prey interaction between hatchery-reared Japanese flounder juvenile, *Paralichthys olivaceus*, and sandy shore crab, *Matuta lunaris*: daily rhythms, anti-predator conditioning and starvation. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, 267: 1 - 14, 2002.
- Gwak W. S., M. Tanaka: Changes in RNA, DNA and protein contents of laboratory-reared Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* during metamorphosis and settlement. *Fisheries Science*, 68: 27 - 33, 2002.
- Hashimoto H., A. Mizuta, N. Okada, T. Suzuki, M. Tagawa, K. Tabata, Y. Yokoyama, M. Sakaguchi, M. Tanaka, H. Toyohara: Isolation and characterization of a Japanese flounder clonal line, *reversed*, which exhibits reversal of metamorphic left-right asymmetry. *Mechanisms of Development*, 111: 17 - 24, 2002.
- Shoji J., M. Aoyama, H. Fujimoto, A. Iwamoto, M. Tanaka: Susceptibility to starvation by piscivorous Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* (Scombridae) larvae at first feeding. *Fisheries Science*, 68: 59 - 64, 2002.
- Masuda R., J. Shoji, M. Aoyama, M. Tanaka: Chub mackerel larvae fed fish larvae can swim faster than those fed rotifers and *Artemia nauplii*. *Fisheries Science*, 68: 320 - 324, 2002.
- Trijuno D. D., K. Yoseda, J. Hirokawa, M. Tagawa, M. Tanaka: Effects of thyroxine and thiourea on the metamorphosis of coral trout grouper *Plectropomus leopardus*. *Fisheries Science*, 68: 282 - 289, 2002.
- Kamisaka Y., T. Kaji, S. Masuma, N. Tezuka, T. Kurokawa, T. Suzuki, G. K. Totland, I. Ronnedstad, M. Tagawa, M. Tanaka: Ontogeny of cholecystokinin-immunoreactive cells in the digestive tract of bluefin tuna, *Thunnus thynnus*, larvae. *Sarsia*, 87: 258 - 262, 2002.
- Kaji T., M. Kodama, H. Arai, M. Tagawa, M. Tanaka: Precocious development of the digestive system in relation to early appearance of piscivory in striped bonito *Sarda orientalis* larvae. *Fisheries Science*, 68: 1212 - 1218, 2002.
- Shoji J., T. Maehara, M. Tanaka: Recruitment of an inherent piscivore, Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* (Scombridae). *Fisheries Science*, 68 suppl I: 218 - 221, 2002.
- Hirai N., M. Tagawa, T. Kaneko, D. H. Secor, M. Tanaka: Freshwater adaptation in Japanese sea bass and striped bass: a comparison of chloride cell distribution during their early life history. *Fisheries Science*, 68 suppl I: 433 - 434, 2002.
- Kaji T., J. Shoji, M. Aoyama, M. Tanaka: Highly specialized development of the digestive system in piscivorous scombrid larvae. *Fisheries Science*, 68 suppl I: 884 - 887, 2002.
- Trijuno D., S. Shiozawa, K. Yoseda, M. Tagawa, M. Tanaka: Development and metamorphosis in coral trout, *Plectropomus leopardus*: morphological, biochemical and physiological aspects. *Fisheries Science*, 68 suppl I: 892 - 895, 2002.
- Kamisaka Y., T. Kurokawa, T. Suzuki, G. K. Totland, I. Ronnestad, M. Tagawa, M. Tanaka: Ontogenetic appearance and distribution of the digestive hormone, cholecystokinin (CCK) in fish. *Fisheries Science*, 68 suppl I: 963 - 964, 2002.
- Tanaka Y., O. Tominaga, T. Tsusaki, M. Tanaka: The factors influencing the growth and feeding of hatchery-raised Japanese flounder juveniles under various designs of experimental mass releases in the field. *Fisheries Science*, 68 suppl I: 1008 - 1009, 2002.
- Hashimoto H., A. Mizuta, N. Okada, T. Suzuki, M. Tagawa, K. Tabata, Y. Yokoyama, M. Sakaguchi, M. Tanaka, H. Toyohara: Japanese flounder, *reversed*, displays a randomization of metamorphic and visceral left-right asymmetries without correlation. *Fisheries Science*, 68 suppl II: 1301 - 1302, 2002.
- Dou S., R. Masuda, M. Tanaka, K. Tsukamoto: Feeding resumption, morphological changes and mortality during starvation in Japanese flounder larvae. *Journal of Fish Biology*, 60: 1363 - 1380, 2002.
- Harada S., S. R. Jeon, I. Kinoshita, M. Tanaka, M. Nishida: Phylogenetic relationships of four species of floating gobies

- (*Gymnogobius*) as inferred from partial mitochondrial cytochrome *b* gene sequences. *Ichthyol. Res.*, 49: 324 - 332.
- 日比野学・木下 泉・太田太郎・田中 克：筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態. 魚類学雑誌 49 (2) : 103-108, 2002.
- 日比野学・太田太郎・木下 泉・田中 克：有明海湾奥部の干潟汀線域に出現する仔稚魚. 魚類学雑誌 49(2) : 109-120, 2002.
- 小路 淳・前原 務・武智昭彦・谷川貴之・村田憲之・田中 克：瀬戸内海中央部の燧灘において採集された仔稚魚. 日本水産学会誌 68(6) : 835-842, 2002.
- 小路 淳・田中 克：資料 瀬戸内海中央燧灘の破碎帯において採集された魚類稚仔. 水産増殖 50(1) : 123-128, 2002.
- Kai Y, Nakayama K, Nakabo T: Genetic differences among three color morphotypes of the black rockfish, *Sebastes inermis*, inferred from mt DNA and AFLP analyses. *Molecular Ecology*, 11: 2591 - 2598, 2002.
- Gwak, W. S., T. Tsusaki, M. Tanaka: Nutritional condition, as evaluated by RNA/DNA ratios, of hatchery-reared Japanese flounder from hatch to release. *Aquaculture*, 219: 503 - 514, 2003.
- Okada, N., Y. Takagi, M. Tanaka, M. Tagawa: Fine Structure of Soft and Hard Tissues Involved in Eye Migration in Metamorphosing Japanese Flounder (*Paralichthys olivaceus*). *The Anatomical Record Part A*, 273A: 663 - 668, 2003.
- Kaji, T., M. Kodama, H. Arai, M. Tanaka, M. Tagawa: Prevention of surface death of marine fish larvae by the addition of egg white into rearing water. *Aquaculture*, 224: 313 - 322, 2003.
- Dou, S., R. Masuda, M. Tanaka, K. Tsukamoto: Identification of factors affecting the growth and survival of the settling Japanese flounder larvae, *Paralichthys olivaceus*. *Aquaculture*, 218: 309 - 327, 2003.
- Harada, Y., I. Kinoshita, T. Kaneko, S. Moriyama, M. Tanaka, M. Tagawa: Response of Neotenic Goby, Ice Goby (*Leucopsarion petersii*), to Thyroid Hormone and Thiourea Treatments. *Zoological Science*, 20: 877 - 882, 2003.
- Harada, Y., S. Harada, I. Kinoshita, M. Tanaka, M. Tagawa: Thyroid Gland Development in a Neotenic Goby (Ice Goby, *Leucopsarion petersii*) and a Common Goby (Ukigori, *Gymnogobius urotaenia*) during Early Life Stages. *Zoological Science*, 20: 883 - 888, 2003.
- Masuda, R., J. Shoji, S. Nakayama, M. Tanaka: Development of schooling behavior in Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* during early ontogeny. *Fisheries Science*, 69: 772 - 776, 2003.
- Nakayama, S., R. Masuda, J. Shoji, T. Takeuchi, M. Tanaka: Effect of prey items on the development of schooling behavior in chub mackerel *Scomber japonicus* in the laboratory. *Fisheries Science*, 69: 670 - 676, 2003.
- Okada, N., M. Tanaka, M. Tagawa: Histological study of deformity in eye location in Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Fisheries Science*, 69: 777 - 784, 2003.
- Kai Y, Nakayama K, Nakabo T: Molecular phylogenetic perspective on speciation in the genus *Sebastes* (Scorpaenidae) from the Northwest Pacific and the position of *Sebastes coithin* in the subfamily Sebastinae. *Ichthyological Research*, 50: 239 - 244, 2003.
- Hossain, M. A. R., M. Tagawa, R. Masuda and M. Tanaka: Changes in growth performance and proximate composition in Japanese flounder during metamorphosis. *J. Fish Biol.*, 63: 1283 - 1294, 2003.
- Nakayama, S., R. Masuda, T. Takeuchi and M. Tanaka: Effect of highly unsaturated fatty acids on escape ability from moon jelly-fish *Aurelia aurita* in red sea bream *Pagrus major* larvae. *Fisheries Science*, 69: 903 - 909, 2003.
- Kamisaka, Y., Y. Fujii, S. Yamamoto, T. Kurokawa, I. Ronnestad, G. K. Totland, M. Tagawa and M. Tanaka: Distribution of cholecystokinin-immunoreactive cells in the digestive tract of the larval teleost, ayu, *Plecoglossus altivelis*. *Gen. Comp. Endocrinol.*, 134: 116 - 121, 2003.
- Okada N., M. Tanaka, M. Tagawa: Bone development during metamorphosis of the Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*): dif-

ferential responses to thyroid hormone. "The Big Fish Bang". Proceedings of the 26th Annual Larval Fish Conference: 177 - 187, 2003.

Shoji J., M. Tanaka: Larval abundance, growth, and recruitment of Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* in the Seto Inland Sea. The Big Fish Bang (Ed. By H. Browman and A. B. Sliftesvik): 395 - 404, Bergen, Norway, 2003.

Shoji J., T. Maehara, M. Tanaka: Comparative diets and growth of two scombrid larvae, chub mackerel *Scomber japonicus* and Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius*, in the Seto Inland Sea, Japan. Ecology of Aquaculture Species and Enhancement or Stocks: Proceedings of the 30th US-Japan Meeting on Aquaculture: 93 - 103, 2003.

牧野 直・松丸 豊・田中 克：スズキ卵の発生に及ぼす水温と塩分の影響。水産増殖 51(1)：55-64, 2003.

有瀧真人・田中 克：ババガレイ飼育仔稚魚の形態発育および成長。日本水産学会誌 69(4)：602-610, 2003.

山下 洋・河村知彦・田中 克：生態の研究。日本水産学会70年史。日本水産学会誌 69(特別号)：41-50, 2003.

■里海生態保全学分野

Takami, H., T. Kawamura and Y. Yamashita: Effects of delayed metamorphosis on larval competence, and post-larval survival and growth of *Haliotis discus hannai*. Aquaculture 213: 311 - 322, 2002.

Sekino M., K. Saitoh, M. Aritaki, T. Yamada, M. Hara and Y. Yamashita: Microsatellite-based pedigree tracing in a Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* hatchery strain: implications for hatchery management related to stock enhancement program. Aquaculture 221: 255 - 263. 2003.

Okumura Y., Y. Yamashita and S Isagawa: Sources of polychlorinated dibenzo-p-dioxines (PCDDs), polychlorinated dibenzofurans (PCDFs), and coplanar polychlorinated biphenols (Co-PCBs), and their bioaccumulation through the marine food web in Sendai Bay, Japan. J. Environ. Monit., 5(4): 610 - 618, 2003.

Asahida T., Y. Shinotsuka, Y. Yamashita, K. Saitoh, K. Hayashizaki and H. Ida: Influence of hatchery protocols on mitochondrial DNA variation in Japanese flounder juveniles. Journal World Aquaculture Soc, 34(2): 121 - 132, 2003.

Saitoh K., M. Takagaki and Y. Yamashita: Detection of Japanese flounder specific DNAs from gut contents of potential predators in the field. Fish. Sci. 69(3): 474 - 477, 2003.

Yamashita Y., O. Tominaga, H. Takami and H. Yamada: Comparison of growth, feeding and cortisol level in stone flounder *Platichthys bicoloratus* juveniles between estuarine and inshore nursery grounds. J. Fish Biol., 63(3): 617 - 630, 2003.

Takami H., D. Muraoka, T. Kawamura and Y Yamashita: When is the abalone *Haliotis discus hannai* Ino 1953 first able to use brown macroalgae?. Journal of Shellfish Research, 22(3): 795 - 800, 2003.

山下 洋・河村知彦・田中 克：生態の研究。日本水産学会誌 69(特別号)：41-50, 2003.

■沿岸資源管理学分野

Miyazaki, T., Shiozawa, S., Kogane, T., Masuda, R., Maruyama, K. and K. Tsukamoto: Developmental changes of the light intensity threshold for school formation in the striped jack *Pseudocaranx dentex*. Mar. Ecol. Prog. Ser. 192: 267 - 275, 2000.

Kuwada, H., Masuda, R., Shiozawa, S., Kogane, T., Imaizumi, K. and K. Tsukamoto: Effect of fish size, handling stresses and training procedure on the swimming behavior of hatchery-reared striped jack: implications for stock enhancement. Aquaculture 185(3-4): 245 - 256, 2000.

Masuda, R. and D.A.Ziemann: Ontogenetic changes of learning capability and stress recovery in the Pacific threadfin juveniles. J. Fish Biol. 56(5): 1239 - 1247, 2000.

Miyazaki, T., Masuda, R., Furuta, S. and K. Tsukamoto: Feeding behaviour of hatchery-reared Juveniles of the Japanese flounder following a period of starvation. Aquaculture 190(1-2): 129 - 138, 2000.

- Masuda, R. and K. Tsukamoto: Onset of association behavior in striped jack, *Pseudocaranx dentex*, in relation to floating objects. *Fish. Bull.* 98(4): 864 - 869, 2000.
- Masuda, R.: Frontiers of stock enhancement: A preview of the Second International Symposium on Stock Enhancement and Sea Ranching. *World Aquacul.* 32: 45 - 47, 2001.
- Ishizaki, Y., Masuda, R., Uematsu, K., Shimizu, K., Arimoto, M. and T. Takeuchi: The effect of dietary docosahexaenoic acid on schooling behaviour and brain development in larval yellowtail. *J. Fish Biol.* 58: 1691 - 1703, 2001.
- Masuda, R., Ostrowski, A. C., and D. A. Ziemann: Pachiness formation and development of schooling behavior in Pacific threadfin *Polydactylus sexfilis* reared with different dietary highly unsaturated fatty acid contents. *J. World Aquacul. Soc.* 32: 309 - 316, 2001.
- Hossain, M. A. R., Tanaka, M. and Masuda, R.: Predator-prey interaction between hatchery-reared Japanese flounder juvenile, *Paralichthys olivaceus*, and sandy shore crab, *Matuta lunaris*: daily rhythms, anti-predator conditioning and starvation. *The Journal of Experimental Marine Biology and Ecology* 267(1): 1 - 14, 2002.
- Masuda, R., Shoji, J., Aoyama, M. and Tanaka, M.: Chub mackerel larvae fed with fish larvae can swim faster than those fed with rotifers and *Artemia* nauplii. *Fisheries Science* 68(2): 320 - 324, 2002.
- Dou, S., Masuda, R., Tanaka, M. and Tsukamoto, K.: Feeding resumption, morphological changes and mortality during starvation in Japanese flounder larvae. *Journal of Fish Biology* 60: 1363 - 1380, 2002.
- 本藤 靖・益田玲爾・津崎龍雄：種苗生産したアカアマダイの巣穴形成能力の発現。栽培漁業 29(2)：85 - 89, 2002.
- 中村元彦・上野正博：漁獲量変動の水準依存性。水産海洋研究 66(2)：110 - 117, 2002.
- Masuda, R. and Ziemann, D.A.: Vulnerability of Pacific threadfin juveniles to predation by bluefin trevally and hammerhead shark: size dependent mortality and handling stress. *Aquaculture* 217: 249 - 257, 2003.
- Masuda, R., Keller, K., Ziemann, D.A. and Ogle, J.: Association with underwater structure in hatchery-reared and wild red snapper *Lutjanus campechanus* juveniles. *Journal of World Aquaculture Soc.* 34: 140 - 146, 2003.
- Dou, S., Masuda, R., Tanaka, M. and Tsukamoto, K.: Identification of factors affecting the growth and survival of the settling Japanese flounder larvae, *Paralichthys olivaceus*. *Aquaculture* 218: 309 - 327, 2003.
- Nakayama, S., Masuda, R., Shoji, J., Takeuchi, T. and Tanaka, M.: Effect of prey items on the development of schooling behavior in club mackerel *Scomber japonicus* in the laboratory. *Fisheries Science* 69: 670 - 676, 2003.
- Masuda, R., Shoji, J., Nakayama, S. and Tanaka, M.: Development of schooling behavior in Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* during the early ontogeny. *Fisheries Science* 69: 772 - 776, 2003.
- Nakayama, S., Masuda, R., Takeuchi, T. and Tanaka, M.: Effect of highly unsaturated fatty acids on escape ability from moon jelly-fish *Aurelia aurita* in red sea bream *Pagrus major* larvae. *Fisheries Science* 69: 903 - 909, 2003.
- Masuda R.: The critical role of docosahexaenoic acid in marine and terrestrial ecosystems: from bacteria to human behavior. In Browman HI and Skiftesvik AB(eds), *The Fish Big Bang-Proceeding of the 26th Annual Larval Fish Conference*, John Greig Grafisk AS, Bergen, Norway: pp.249 - 256, 2003.
- 益田玲爾：魚類における対捕食者行動の個体発生に関する研究。日本水産学会誌 69：547 - 549, 2003.

基礎海洋生物学部門

■海洋生物系統分類学分野

- Kubota, S.: Parallel, paedomorphic evolutionary processes of the bivalve-inhabiting hydrozoans (Leptomedusae, Eirenidae) deduced from the morphology, life cycle and biogeography, with special reference to taxonomic treatment of *Eugymnanthea*. *Sci. Mar.*, 64

- (Supl.1): 241 - 247, 2000.
- Sasaki, K., Ueno, S., Iwanaga, S., Oshiro, N. and Kubota, S.: Some biological notes on *Lobatolampea tetragona* (Ctenophora: Lobatolampeidae) in Japan. *Plankton Biol. Ecol.*, 48(2): 136 - 137, 2001.
- Yusa, Y., Yamato, S. and Marumura, M.: Ecology of a parasitic barnacle, *Koleolepas avis*: relationship to the hosts, distribution, left-right asymmetry and reproduction. *J. Mar. Biol. Ass. U.K.* 81: 781 - 788, 2001.
- Chang, C.Y., Kubota, S. and Shirayama, Y.: New marine gastrotrichs of the family Thaumastodermatidae (Gastrotricha: Macrotrichida) from Shirahama, Japan. *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 115(4): 769 - 781, 2002.
- Kubota, S., Iwanaga, S., Oshiro, N. and Torigoe, K.: New association of *Eugymnanthea japonica* (Hydrozoa, Leptomedusae, Eirenidae) with an oyster, *Dendrostrea sandvichensis* (Bivalvia, Ostreoida, Ostreidae), in Okinawa Island, Japan. *Biol. Mag. Okinawa*, 41: 51 - 54, 2003.
- Kubota, S.: A new occurrence of the medusa of the "intermedia" form of *Eutima japonica* (Hydrozoa, Leptomedusae, Eirenidae) in Okinawa Island, Japan. *Biol. Mag. Okinawa*, 41: 55 - 59, 2003.
- Genzano, G.N. and Kubota, S.: Synchronous mass release of mature medusae from the hydroid *Halocordyle disticha* (Hydrozoa, Halocordylidae) and experimental induction of different timing by light changes. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 39(4/6): 221 - 228, 2003.
- Kawamura, M., Ueno, S., Iwanaga, S., Oshiro, N., and Kubota, S.: The relationship between fine rings in the statolith and growth of the cubomedusa *Chiropsalmus quadrigatus* (Cnidaria: Cubozoa) from Okinawa Island, Japan. *Plankton Biol. Ecol.*, 50(2): 37 - 42, 2003.
- 久保田信：ナガコガネグモ *Argiope bruennichii* フナムシ *Ligia exotica* を摂食。南紀生物 41 (2) : 28, 2000.
- 久保田信・鳥越兼治：マツバガイ (軟体動物門, 原始腹足類) の大形個体。南紀生物 42 (2) : 99-100, 2000.
- 久保田信：森 義純・田名瀬英朋：和歌山県田辺湾に出現した大形のユウレイクラゲ (刺胞動物門, 鉢虫綱)。南紀生物 42 (2) : 125-126, 2000.
- 久保田信：和歌山県白浜町産アメフラシ (軟体動物門, 後鰓類) の体色変異。南紀生物 42 (2) : 139-140, 2000.
- 久保田信・山口寿之：多数の蔓脚類が着生したイボショウジンガニ (節足動物門, 十脚類)。南紀生物, 42 (2) : 147-148, 2000.
- 坂井恵一・久保田信：能登半島で見つかったフカウラヒドラ *Fukaurahydra anthoformis* Yamada (刺胞動物, ヒドロ虫綱, オオウミヒドラ科)。のと海洋ふれあいセンター研究報告 6 : 1-7, 2000.
- 興田喜久男・久保田信・疋田 努：ニホンカナヘビとニホントカゲ (有鱗目, トカゲ亜目) の連続死。くろしお (19) : 11-12, 2000.
- 久保田信・中口和光・郷 秋雄：豊潮丸での南西諸島産ヒドロ虫類相の調査。くろしお (19) : 18-23, 2000.
- 久保田信：海面を滑走する淡水性アメンボ (半翅目, アメンボ科)。くろしお (19) : 31-32, 2000.
- 久保田信：慶良間列島, 阿嘉島で再び漂着したチレニアイガイ (軟体動物門, 二枚貝綱)。みどりいし (11) : 4, 2000.
- 久保田信・山本清彦・川勝正治：和歌山県で初めて出現した3種のコウガイビル類 (扁形動物門, 渦虫綱, 三岐腸目)。南紀生物 43 (1) : 6-10, 2001.
- 久保田信・土生紳吾：生きたヤクシマダカラ (前鰓類, タカラガイ科) の貝類に付着したウミサカヅキガヤ科 (ヒドロ虫類, 有鞘目) の群体。南紀生物 43 (1) : 23-24, 2001.
- 久保田信：和歌山県白浜半島付近の海岸道路で最近事故死した3種の哺乳類。南紀生物 43 (1) : 58, 2001.
- 今原幸光・岡本 洋・久保田信：紀伊水道東岸で定着したミドリイガイ (二枚貝綱, イガイ目) - 和歌山県北部での初記録 -。南紀生物 43 (1) : 73-74, 2001.
- 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次：和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種, 1976-2001。南紀生物 43 (2) : 102-108,

2001.

梅本信也・久保田信：紀伊半島南部におけるハマダイコンの種内変異. 南紀生物 43(2) : 155-157, 2001.

淤見慶宏・久保田信：生きたフジツボ類が着生したメダカラ (軟体動物門, 腹足綱, タカラガイ科). 南紀生物 43(2) : 173-174, 2001.

久保田信：海面を滑走する1対の淡水性アメンボ (半翅目, アメンボ科) の追加記録. くろしお(20) : 21-22, 2001.

久保田信：傘の上部に短い柄を形成したシイタケ (キシメジ科, ハラタケ目). くろしお(20) : 22-23, 2001.

久保田信：和歌山県田辺市新庄公園の排水溝に落下した動物. くろしお(20) : 23-26, 2001.

鳥越兼治・久保田信・小川数也：ムツサンゴ広島湾周辺海域 (瀬戸内海) に産す. 南紀生物 44(1) : 53, 2002.

湊 宏・久保田信・土生紳吾：白浜町沿岸に漂着したオオクビキレガイ (腹足綱, 有肺亜綱). 南紀生物 44(1) : 64-65, 2002.

久保田信・小山安生：番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録(1). 南紀生物 44(1) : 69-76, 2002.

久保田信・岩尾研二：慶良間列島阿嘉島沿岸で採取されたクラゲ類 (刺胞動物門). みどりいし(13) : 19-22, 2002.

築地新光子・築地新チサ・久保田信：マツバガイ (軟体動物門, 原始腹足類) の日本最大の野生個体. 南紀生物 44(2) : 106, 2002.

早川厚一郎・永井宏史・久保田信：キヒトデ (キヒトデ目, キヒトデ科) の異常個体. 南紀生物 44(2) : 140, 2002.

岸田拓士・久保田信：和歌山県白浜町沿岸に漂着したハクジラ類の歯. 南紀生物 44(2) : 155-156, 2002.

久保田信：和歌山県古座町の海岸道路で事故死したニホンテン (イタチ科). くろしお(21) : 6, 2002.

久保田信：貝殻のほぼ全体を生きたマガキ (軟体動物門, 二枚貝類) で被われたヨメガカサ (軟体動物門, 原始腹足類) の生貝. くろしお(21) : 9, 2002.

久保田信：穂の中軸が二股に分かれた和歌山県白浜産のエノコログサ (イネ科). くろしお(21) : 29-31, 2002.

久保田信：本覚寺村貝1-35号に記録された和歌山県南部町堺港で水揚げされた軟体動物のリスト. 本覚寺村貝(37) : 13-18, 2002.

久保田信・田名瀬英朋：和歌山県白浜町の海岸付近におけるクマゼミの初鳴き. 南紀生物 44(2) : 114, 2002.

久保田信・小山安生：番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町) へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録(2). 南紀生物 44(2) : 133-139, 2002.

田名瀬英朋・久保田信：和歌山県田辺湾から採集された稀種クロハコフグ (ハコフグ科, 魚類). 南紀生物 44(2) : 149-150, 2002.

檜山嘉郎・久保田信：和歌山県白浜町産の熱帯系ゴキブリ類3種 (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 南紀生物 44(2) : 153-154, 2002.

太田 満・久保田信：付着動物を含め貝殻の大部分を滑層で乳白色に白濁するほど厚く覆ったヤクシマダカラ (軟体動物門, 腹足綱). 南紀生物 44(2) : 125-126, 2002.

岩永節子・大城直雅・久保田信：日本で初めて記録されたギヤマンハナクラゲ *Timoides agassizii* (Anthomedusae, Pandeidae) の大量出現と刺胞障害. 沖縄生物学会誌 41 : 61-66, 2003.

築地新光子・久保田信：日本で初めて確認されたベニクラゲ (刺胞動物門, 花クラゲ目) の若返りとその後のポリプ群体の成長. 南紀生物 45(1) : 13-14, 2003.

築地新光子・久保田信：鹿児島湾に出現した多数のベニクラゲ (刺胞動物門, ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) とその若返りについて. 日本生物地理学会会報 58 : 35-38, 2003.

奥泉和也・久保田信：日本海産ハナクラゲモドキ *Melicertum octocostatum* (軟クラゲ目, ハナクラゲモドキ科) の成熟クラゲ. 日本生物地理学会会報 58 : 39-41, 2003.

- 久保田信：日本産の花クラゲ目と軟クラゲ目（ヒドロ虫綱）のクラゲの目録．南紀生物 45(1)：27-32, 2003.
- 久保田信：双子のマメトマト果実．くろしお(22)：23, 2003.
- 久保田信：南イタリア，レッツェ大学でヒドロ虫類（刺胞動物門）を研究 - チチュウカイカイヤドリヒドラクラゲ（軟クラゲ目，エイレネクラゲ科）はベニクラゲの如く若返らず - ．日伊生物学会会報(20)：11-7, 2003.
- 久保田信：和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”へ漂着した大形クラゲ類の季節変化．漂着物学会誌(1)：21-24, 2003.
- 久保田信：南方系植物果実複数種の和歌山県白浜町番所崎への稀な漂着記録．漂着物学会誌(1)：31-32, 2003.
- 久保田信：和歌山県白浜町臨海“北浜”に打ち上がったミドリイガイ．本覺寺杼貝(41)：15-17, 2003.
- 久保田信・的場 績：和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”の高潮線附近に生息する節足動物や蜘蛛形類，特にニセハマヒョウタンゴミムシダマシ（ゴミムシダマシ科）．くろしお(22)：25-26, 2003.
- 久保田信・榎山嘉郎・田名瀬英朋：番所崎，特に“北浜”（和歌山県白浜町）へ打ち上げられた魚類．くろしお(22)：31-33, 2003.
- 久保田信・水谷精一：北日本産のベニクラゲ（ヒドロ虫綱，花クラゲ目，クラバ科）における退化後の不思議な運命．南紀生物 45(2)：107-109, 2003.
- 久保田信・小林亜玲・河原正人・上野俊士郎：瀬戸内海で初めて採集されたベニクラゲ（花クラゲ目，クラバ科）の成熟個体．南紀生物 45(2)：148-149, 2003.
- 河村真理子・Cinzia Gravili・久保田信：和歌山県田辺湾で採集された2個の口柄を有するヤセオベリア *Obelia dichotoma*（軟クラゲ目，ウミサカヅキガヤ科）の成熟クラゲ．南紀生物 45(1)：71-72, 2003.
- 岸田拓士・森阪匡通・久保田信・天野雅男：和歌山県白浜町番所崎の南浜にて発見されたハンドウイルカ *Tursiops truncatus*．漂着物学会誌(1)：25-28, 2003.
- 榎山嘉郎・久保田信・戸部博・中西弘樹：変わった型のココヤシの和歌山県白浜町番所崎への漂着記録．漂着物学会誌(1)：29-30, 2003.

■海洋生物進化形態学分野

- Manzanas, M., Wada, H., Itasaki, N., Trainor, P.A., Krumlauf, R. and Holland, P.W.H.: Conservation and elaboration of Hox gene regulation during evolution of the vertebrate head. *Nature*, 408: 854-857, 2000.
- Miyazaki, K., Ueshima, R. and Makioka, T.: Structure of the female reproductive system and oogenetic mode in a schizomid, *Schizomus sawadai* (Arachnida, Schizomida). *Invertebr. Reprod. Dev.*, 40: 1-7, 2001.
- Wada, H.: The origin of the neural crest and insights into evolution of the vertebrate face. H. Sawada (ed.), *Proceedings of the First International Symposium on the Biology of Ascidians*: pp.235-240, Springer-Verlag, 2001.
- Wada, H.: Origin and evolution of the neural crest: A hypothetical reconstruction of its evolutionary history. *Develop. Growth Differ.*, 43: 509-520, 2001.
- Wada, H. and Satoh, N.: Patterning the protochordate neural tube. *Curr. Opin. Neurobiol.*, 11: 16-21, 2001.
- Holland, P.W.H., Wada, H., Manzanas, M., Krumlauf, R. and Shimeld, S.: The origin of the neural crest. In, *Major events in early vertebrate evolution*, Taylor & Francis, London: pp.33-39, 2001.
- Miyazaki, K.: Occurrence of juvenile forms of a pycnogonid, *Ammothella biunguiculata* (Pycnogonida, Ammotheidae) in an actinian, *Entacmaea actinostoloides* (Anthozoa, Stichodactylidae). *Proc. Arthropod. Embryol. Soc. Jpn.*, 37: 43-44, 2002.
- Wada, H., Kobayashi, M., Sato, R., Miyasaka, H. and Shirayama, Y.: Dynamic insertion-deletion of introns in deuterostome EF-1a genes. *J. Mol. Evol.*, 54: 118-128, 2002.
- Miyazaki, K.: On the shape of foregut lumen in sea spiders (Arthropoda: Pycnogonida). *J. Mar. Biol. Ass. U.K.*, 82: 1037-1038,

2002.

Mona, M.H., Miyazaki, K. and Atlam A.E.: Histological and scanning electron microscopic study on the branchial crown of *Hydroides elegans* (Haswell, 1883) (Polychaeta, Serpulidae) with consideration of its functional and taxonomical value. *Proceedings of the International Conference on Biological Sciences*, 2(2): 128 - 145, 2002.

Oda, H., Wada, H., Tagawa, K., Akiyama-Oda, Y., Satoh, N., Humphreys, T., Zhang, S. and Tsukita, S.: A novel amphioxus cadherin that localizes to epithelial adherens junctions has an unusual domain organization with implication for chordate phylogeny. *Evol. Dev.*, 4: 426 - 434, 2002.

Sun, X., Okuyama, M., Miyazaki, K., Zhang, S. and Wada, H.: An ascidian RING finger gene is specifically expressed in a single cell of larval ocellus. *Gene*, 312: 111 - 116, 2003.

和田 洋：多細胞動物の発生と進化 脊椎動物への4つのステップ. 蛋白質 核酸 酵素 46(10) : 1340-1348, 2001.

宮崎勝己：サンゴイソギンチャクに寄生するフタツメイソウミグモの生活史. うみうし通信(37) : 6-9, 2002.

和田 洋：ゲノムの多様性と形態の多様性, 「ポストゲノムの分子生物学」(村上康文 編), 化学同人, 京都 : pp.65-78, 2003.

和田 洋：エンハンサーの進化, 「ゲノムからみた生物の多様性と進化」(五條堀孝 編), シュプリンガーフェアラーク, 東京 : pp.50-57, 2003.

■海洋生物多様性保全学分野

Shimanaga, M. and Shirayama, Y.: Response of benthic organisms to seasonal change of organic matter deposition in the bathyal Sagami Bay, central Japan. *Oceanologica Acta*, 23: 91 - 107, 2000.

Kitazato, H., Shirayama, Y., Nakatsuka, T., Fujiwara, S., Shimanaga, M., Kato, Y., Okada, Y., Kanda, J., Yamaoka, A., Masuzawa, T. and Suzuki, K.: Seasonal phytodetritus deposition and responses of bathyal benthic foraminiferal populations in Sagami Bay, Japan - Preliminary results from "Project Sagami". *Mar. Micropaleontol.*, 40: 135 - 149, 2000.

Shimanaga, M., Kitazato, H. and Shirayama, Y.: Seasonal patterns of vertical distribution between meiofaunal groups in relation to phytodetritus deposition in the bathyal Sagami Bay, Central Japan. *J. Oceanogr.*, 56: 379 - 387, 2000.

Fukushima, T., Shirayama, Y. and Kuboki, E.: The characteristics of deep-sea epifaunal megabenthos community two years after an artificial rapid deposition event. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 39(1): 17 - 27, 2000.

Sato, M. and Wada, K.: Resource utilization for decorating in three intertidal majid crabs (Brachyura: Majidae). *Mar. Biol.*, 137: 705 - 714, 2000.

Kato, M. and Itani, G.: *Peregrinamor gastrochaenans* (Bivalvia: Mollusca), a new species symbiotic with the thalassinidean shrimp *Upogebia carinicauda* (Decapoda: Crustacea). *Species Diversity*, 5: 309 - 316, 2000.

Sato M., Uchida, H., Itani G. and Yamashita H.: Taxonomy and life history of the scale worm *Hesperonoe hwanghaiensis* (Polychaeta: Polynoidae) newly recorded in Japan, with special reference to commensalism to a burrowing shrimp *Upogebia major*. *Zool. Sci.*, 18: 981 - 991, 2001.

Wada, H., Kobayashi, M., Sato, R., Miyasaka, H. and Shirayama, Y.: Dynamic insertion-deletion of introns in deuterostome EF-1a genes. *J. Mol. Evol.*, 54: 118 - 128, 2002.

Itani, G., Kato, M. and Shirayama, Y.: Behaviour of the shrimp ectosymbionts, *Peregrinamor ohshimai* (Mollusca: Bivalvia) and *Phyllodurus* sp. (Crustacea: Isopoda), through host ecdyses. *J. Mar. Biol. Ass. U.K.*, 82: 69 - 78, 2002.

Itani, G., Davie, P.J.F. and Takeda, M.: Taxonomic notes on *Acmaeopleura balsi* Shen, 1932 and *A. toriumii* Takeda, 1974 (Crustacea, Brachyura, Grapsidae) from Japanese waters. *Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. A*, 28: 43 - 50, 2002.

Murakami, C., Adrianov, A. and Shirayama, Y.: Taxonomic study of the Kinorhyncha in Japan I. *Pycnophyes tubuliferus* Adrianov,

- 1989 (Kinorhyncha: Homalorhagida) from Japan. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 39(2/3): 113 - 127, 2002.
- Itani, G.: Two types of symbioses between grapsid crabs and a host thalassinidean shrimp. Publ. Seto Mar. Biol. Lab., 39(2/3): 129 - 137, 2002.
- Adrianov, A.V., Murakami, C. and Shirayama, Y. Taxonomic study of the Kinorhyncha in Japan. II. *Condyloderes setoensis* n. sp. (Kinorhyncha: Cyclorhagida) from Tanabe Bay (Honshu Is.) -first representative of the genus in the Pacific ocean. Proc. Biol. Soc. Wash., 115: 205 - 216, 2002.
- Adrianov, A.V., Murakami, C. and Shirayama, Y.: Taxonomic study of the Kinorhyncha in Japan. III. *Echinoderes sensibilis* n. sp. (Kinorhyncha: Cyclorhagida) from Tanabe Bay. Zool. Sci., 19: 463 - 473, 2002.
- Adrianov, A.V., Murakami, C. and Shirayama, Y.: *Echinoderes aureus* n. sp. (Kinorhyncha: Cyclorhagida) from Tanabe Bay (Honshu Island), Japan, with a key to the genus Echinoderes. Species Diversity, 7(1): 47 - 66, 2002.
- Shirayama, Y.: Towards comprehensive understanding of impacts of marine organisms due to raised CO₂ concentration. Proceedings of the 5th International Symposium on CO₂ Fixation and Efficient Utilization of Energy: pp.177 - 181, 2002.
- Chang, C.Y., Kubota, S. and Shirayama, Y.: New marine gastrotrichs of the family Thaumastodermatidae (Gastrotricha: Macrodasyida) from Shirahama, Japan. Proc. Biol. Soc. Wash., 115(4): 769 - 781, 2002.
- Itani, G. and Kato, M.: *Cryptomya (Venatomya) truncata* (Bivalvia: Myidae): association with thalassinidean shrimp burrows and morphometric variation in Japanese waters. Venus, 61(3-4): 193 - 202, 2002.
- Kitazato, H., Nakatsuka, T., Shimanaga, M., Kanda, J., Soh, W., Kato, Y., Okada, Y., Yamaoka, A., Masuzawa, T., Suzuki, K. and Shirayama, Y. Long-term monitoring of the sedimentary processes in the central part of Sagami Bay, Japan: rationale, logistics and overview of results. Prog. Oceanogr., 57: 3 - 16, 2003.
- Nakatsuka, T., Masuzawa, T., Kanda, J., Kitazato, H., Shirayama, Y., Shimanaga, M. and Yamaoka, A.: Particle dynamics in the deep water column of Sagami Bay, Japan. I: Origins of apparent flux of sinking particles. Prog. Oceanogr., 57: 31 - 46, 2003.
- Kato, Y., Kitazato, H., Shimanaga, M., Nakatsuka, T., Shirayama, Y. and Masuzawa, T.: 210Pb and 137Cs in sediments from Sagami Bay, Japan: sedimentation rates and inventories. Prog. Oceanogr., 57: 77 - 96, 2003.
- Shimanaga, M. and Shirayama, Y.: Sex ratio and reproductive activity of benthic copepods in bathyal Sagami Bay (1430 m), central Japan. Prog. Oceanogr., 57: 97 - 108, 2003.
- Yu, O.H., Suh, H.-L. and Shirayama, Y.: Feeding ecology of three amphipod species *Synchelidium lenorostratum*, *S. trioostegitum* and *Gitanopsis japonica* in the surf zone of a sandy shore. Mar. Ecol. Prog. Ser., 258: 189 - 199, 2003.
- Itani, G. and Uchino, T.: Burrow morphology of the goby *Taenioides cirratus*. J. Mar. Biol. Ass. U.K., 83: 881 - 882, 2003.
- 田名瀬英朋・石谷 大・中平有哉：田辺湾（和歌山県）から採集したイトヒキヨウジ（ヨウジウオ科魚類）。南紀生物 42(1)：39-40, 2000.
- 久保田信・森 義純・田名瀬英朋：和歌山県田辺湾に出現した大形のユウレイクラゲ（刺胞動物門，鉢虫綱）。南紀生物 42(2)：125-126, 2000.
- 伊谷 行：ヒメアカイソガニ（短尾下目，イワガニ科）の伊豆・小笠原諸島における分布。南紀生物 42(1)：69-71, 2000.
- 齊藤暢宏・伊谷 行・布村 昇：日本産等脚目甲殻類目録（予報）。富山市科学文化センター研究報告(23)：11-107, 2000.
- 伊谷 行：和歌山県南部におけるヨコヤアナジャコの個体群特性。南紀生物 43(1)：1-5, 2001.
- 伊谷 行・藤原秀樹：ヘイケガニ，ウミサボテンを背負う。南紀生物 43(1)：47-49, 2001.
- 大垣俊一・田名瀬英朋・和田恵次：和歌山県田辺湾内之浦の海岸生物記録種，1976-2001。南紀生物 43(2)：102-108, 2001.

- 田名瀬英朋：和歌山県田辺湾に生息するミドリイガイ（軟体動物門，イガイ科）に付着するアカフジツボ（節足動物門，フジツボ科）．南紀生物 43(2)：141-142, 2001.
- 伊谷 行：田辺湾産シオヤガイの相対成長．南紀生物 43(2)：161-162, 2001.
- 湊見慶宏・久保田信：生きたフジツボ類が着生したメダカラ（軟体動物門，腹足綱，タカラガイ科）．南紀生物 43(2)：173-174, 2001.
- 伊谷 行：巣穴の中のひそやかな多様性 - アナジャコ類とともに生きる生物から - [要旨]．日本ベントス学会誌 56：50-53, 2001.
- 田名瀬英朋・真鍋 豊：和歌山県田辺湾に出現した大型のミドリイガイ（軟体動物門，イガイ科）．南紀生物 44(1)：48-49, 2002.
- 白山義久・伊谷 結・村上知里・A.V. Adrianov：多様性の創出機構．月刊海洋，号外(29)：46-52, 2002.
- 久保田信・田名瀬英朋：和歌山県白浜町の海岸付近におけるクマゼミの初鳴き．南紀生物 44(2)：114, 2002.
- 田名瀬英朋・久保田信：和歌山県田辺湾から採集された稀種クロハコフグ（ハコフグ科，魚類）．南紀生物 44(2)：149-150, 2002.
- 久保田信・榎山嘉郎・田名瀬英朋：番所崎，特に“北浜”（和歌山県白浜町）へ打ち上げられた魚類．くろしお(22)：31-33, 2003.
- 田名瀬英朋：和歌山県田辺湾から採集された稀種クサモチアメフラシ（軟体動物門，アメフラシ科）．南紀生物 45(1)：49-50, 2003.
- 田名瀬英朋：和歌山県白浜町におけるアカギカメムシ（半翅目，カメムシ科）の採集記録．南紀生物 45(2)：143-144, 2003.
- 村上千里：動物動物に関する研究 - 日本における新分布域の報告 - ．日本海洋生物研究所年報(2003)：43-50, 2003.

II-3 学内・所内誌等

森林生物圏部門

■森林資源管理学分野

- Junji SANO, Shigenobu TAMAI and Makoto ANDO: A Preliminary Research of the Effects of Global Warming on the Species Composition and Vegetation Productivity in the Eastern, Mediterranean Region of Turkey -The Vertical Distribution of the Dominant Tree Species-. Proceedings of the International Workshop for the Research Project on the Impact of Climate Change on Agricultural Production system in Arid Areas (ICCAP): 49-52, 2003.
- Shigenobu TAMAI, Makoto ANDO, Junji SANO: Effect of climate changes on the species composition and productivity of plant communities in Cukurova Plain. Vegetation Sub-Group Progress Report, The Interim Report of ICCAP (The Research Project on the Impact of Climate Changes on Agricultural Production System in Arid Areas (ICCAP)), Research Team for ICCAP Project, Research Institute for Humanity and Nature, The Scientific and Technical Research Council of Turkey: 71-73, 2004.
- Shigenobu TAMAI, Makoto ANDO, Junji SANO: Stand structure of plant communities in Cukurova Plain. The Interim Report of ICCAP (The Research Project on the Impact of Climate Changes on Agricultural Production System in Arid Areas (ICCAP)), Research Team for ICCAP Project, Research Institute for Humanity and Nature, The Scientific and Technical Research Council of Turkey: 75-78, 2004.
- Makoto ANDO, Junji SANO and Shigenobu TAMAI: The Effects of Global Warming on the Tree Species Composition in Forests of the Eastern Mediterranean Region in Turkey -The Vertical Distribution of the Vegetation on the Basin of the Seyhan and

Ceyhan Rivers-. The Interim Report of ICCAP (The Research Project on the Impact of Climate Changes on Agricultural Production System in Arid Areas (ICCAP)), Research Team for ICCAP Project, Research Institute for Humanity and Nature, The Scientific and Technical Research Council of Turkey: 79-82, 2004.

Junji SANO, Shigenobu TAMAI and Makoto ANDO: An Interim Report on the effects of Global Warming on the Species Composition and Vegetation Productivity in the Eastern Mediterranean Region of Turkey -Species composition and environmental factors along the vertical distribution of trees in Cukurova Plain. The Interim Report of ICCAP (The Research Project on the Impact of Climate Changes on Agricultural Production System in Arid Areas (ICCAP)), Research Team for ICCAP Project, Research Institute for Humanity and Nature, The Scientific and Technical Research Council of Turkey: 83-87, 2004.

■森林環境情報学分野

Masami Shiba: Chronologie einiger Entwicklungen in Waldverwaltung und Forstwirtschaft in Japan. Manuskript zu den Lehrvorlesungen fuer Studierende der Forstwissenschaft, ETH Zuerich: 1-55, 2002.

柳 直文・中島 皇・佐藤修一・古本浩望・川村 誠：エゾシカ食害調査区の設定。京大演習林試験研究年報：17-21, 2000.

細見純嗣・神垣秀樹・中島 皇：芦生における天気予報の適中率。京大演習林試験研究年報：41-44, 2000.

馬渡和則・中島 皇：北海道演習林標茶区の気象。京大演習林試験研究年報：45-52, 2000.

馬渡和則・中島 皇：北海道演習林標茶区及び周辺の渓流水のpHとEC。京大演習林試験研究年報：21-30, 2001.

大橋健太・細見純嗣・岡部芳彦・中島 皇：芦生演習林，幽仙谷。天然林における樹木調査，－結果とプロットの設定・維持コスト－。京大演習林試験研究年報：9-13, 2002.

里域生態系部門

■里山資源保全学分野

柴田泰柁・柳本 順・平井岳志・佐々木里也子・柴田昌三：ヒノキ天然林における測定結果からみた各樹高測定機器の精度・正確度および作業能率について－樹高測定機器の有用性の検討－。京都大学農学部附属演習林試験研究年報 1999年度：49-56, 2001.

柳本 順・柴田泰柁・平井岳志・橋田里也子・中川智之・柴田昌三：上賀茂試験地における天然生ヒノキの立木幹材積表の作成とその成長過程。京都大学農学部附属演習林試験研究年報 2000年度：9-17, 2002.

境慎二郎・柴田昌三・大澤直哉・中西麻美・寺井厚海：伐採等の人為攪乱による鳥類の脱糞量の変化と種子供給の関係－伐採前後の比較－。演習林試験研究年報 2000年度：18-22, 2002.

■里地生態保全分野

檜山嘉郎・久保田信・白山義久・梅本信也：瀬戸臨海実験所構内植物リスト（1962-2002）瀬戸臨海実験所年報 15：30-37, 2002.

■里海生態保全学分野

栗田 豊・小向貴志・小野寺光文・佐伯光弘・富山 毅・山下 洋：東北太平洋沿岸域における天然ヒラメの新規加入量。東北底魚研究，東北区水産研究所 22：138-140, 2002.

基礎海洋生物学部門

■海洋生物系統分類学分野

- 久保田信：田辺湾周辺海域の腔腸動物相 淡水水母目（刺胞動物門，ヒドロ虫綱）。瀬戸臨海実験所年報 13：36-37，2000。
- 久保田信：田辺湾周辺海域の腔腸動物相 鉢水母綱（刺胞動物門）。瀬戸臨海実験所年報 14：32-33，2001。
- 久保田信：田辺湾周辺海域の腔腸動物相・盤水母目・管水母目（刺胞動物門，ヒドロ虫綱）。瀬戸臨海実験所年報 15：38-39，2002。
- 檜山嘉郎・久保田信・白山義久・梅本信也：瀬戸臨海実験所構内植物リスト（1962-2002）。瀬戸臨海実験所年報 15：30-37，2002。
- 久保田信：和歌山県田辺湾およびその周辺海域から記録された有クラゲ類及び有櫛動物の目録 - 生活史上でのポリプとクラゲの結合。瀬戸臨海実験所年報 16：30-35，2003。

■海洋生物多様性保全学分野

- 山本泰司・太田 満・田名瀬英朋：袋湾（紀伊半島南西部）より収集したヒメツバメウオと飼育経過。瀬戸臨海実験所年報 13：32-35，2000。
- 檜山嘉郎・久保田信・白山義久・梅本信也：瀬戸臨海実験所構内植物リスト（1962-2002）。瀬戸臨海実験所年報 15：30-37，2002。

II-4 一般誌等

森林生物圏部門

■森林環境情報学分野

- 中島 皇・濱本なお：いちばん東の演習林。北方林業 vol.5, No, 2000。
- 中島 皇：森林の多角的利用と大学演習林。森林利用学会誌 16：51-52，2001。
- 芝 正己：森のめぐみの連鎖を辿って，熊野林業 6：19-23，2002。

里域生態系部門

■里山資源保全学分野

- 柴田昌三：竹のある植物園めぐり 京都大学大学院農学研究科附属演習林上賀茂試験地。竹 75：85-88，2001。
- 柴田昌三：世界竹籐ネットワーク・ワークショップに参加して（一）開催の異議とトレーニング・ワークショップの内容。竹 76：20-22，2001。
- 柴田昌三：世界竹籐ネットワーク・ワークショップに参加して（二）見学地の感想とわが国竹産業界への示唆。竹 77：15-18，2001。
- 柴田昌三：エクアドルで開催された国際タケワークショップに参加して。竹 80：15-19，2002。
- 柴田昌三：コロンビア竹事情 (I) 自生タケ類。竹 81：18-20，2002。
- 柴田昌三：タケとササは木なの？草なの？。趣味悠々樹木ウォッチング：68-69，2002。
- 柴田昌三：コロンビア竹事情 (II) 竹林管理と経営の現状。竹 83：13-16，2003。
- 柴田昌三：コロンビア竹事情 (III) 竹材の利用。竹 84：18-21，2003。

柴田昌三：里山の中の新たな区別化。みどりのトラスト40：1-2, 2003.

柴田昌三：放置竹林の現状と背景。林業新知識598：4-5, 2003.

柴田昌三：荒廃竹林からの竹材生産とそのため管理。林業新知識599：6-7, 2003.

■里地生態保全分野

梅本信也：雑草と染色文化〈黒潮あらう八丈島〉－黄八丈を染めるコブナグサをめぐって－。月刊染色 *a* 233：54-56, 2000.

梅本信也：和歌山県紀伊大島におけるメダケの利用。富士竹類植物園報告45：125-129, 2001.

梅本信也。紀州におけるダンチクの植物文化誌。熊野誌47：6-22, 2002.

梅本信也：紀伊大島におけるアオノクマタケランの植物文化誌。熊野誌48：102-116, 2002.

梅本信也：センダングサ種子の風散布。くろしお21：14, 2002.

梅本信也・京都大学ポケットゼミ紀伊大島植物研究グループ・伊藤操子：紀伊大島へのスイカズラ科ハクサンボクの人為移入と拡大。くろしお21：21-25, 2002.

梅本信也：ヘリトリゴケ雑記I。日本地衣学会ニュースレター4：14, 2002.

梅本信也：ヘリトリゴケ雑記II。日本地衣学会ニュースレター7：25, 2002.

梅本信也：ヘリトリゴケ雑記III。日本地衣学会ニュースレター9：31-32, 2002.

梅本信也：和歌山県紀伊大島の庭畑におけるメダケの利用。富士竹類植物園報告46：25-30, 2002.

梅本信也：モウソウチクの古導入と雑草化。富士竹類植物園報告47：77-86, 2003.

梅本信也：紀伊水道における“暖崖”（仮説）の提唱。南紀生物45(1)：73-74, 2003.

■河口域生態学分野

原田慈雄・木下 泉・西田 睦・田中 克：ウキゴリ属仔稚魚の黒色素胞分布様式における適応的側面と系統的側面。月刊海洋24(号外)：194-202, 2001.

田川正朋・中山耕至・田中 克：魚類の変態と初期生残。月刊海洋29(号外)：161-166, 2002.

■沿岸資源管理学分野

竹内俊郎・石崎靖朗・益田玲爾：ブリ仔魚の脳と行動の発達に影響を及ぼすドコサヘキサエン酸。月刊養殖2000年12月号：114-117, 2000.

益田玲爾：魚の行動からさぐる資源変動機構。月刊海洋 号外(29)：167-172, 2002.

Obaldo, L. G., Masuda, R.: Diet size affects shrimp feeding behavior and growth performance. *Global Aquaculture Advocate*. June: 67-68. 2003.

基礎海洋生物学部門

■海洋生物系統分類学分野

久保田信：海洋生物を意匠に用いた琉球切手。くろしお(19)：35-36, 2000.

久保田信：ナポリ・イスキアなど南イタリアでの生物学的研究を終えて。日伊生物学会会報19：9-16, 2000.

久保田信：不思議な生命体、クラゲのホットな話題。水産週報(1522)：5-7, 2000.

久保田信：汝 夢見る人よ、海洋生物を知れ！。海産研News(39)：6, 2000.

野崎真澄・久保田信：フカウラヒドラ。新潟大学理学部附属臨海実験所研究概要・年次報告(30)：表紙の写真, 2000.

- 樫山嘉郎・久保田信：世界のクラゲ切手 [4]. うみうし通信(27)：6-8, 2000.
- 樫山嘉郎・久保田信：世界のクラゲ切手 [5]. うみうし通信(28)：9-11, 2000.
- 久保田信：世界のクラゲ切手 [6]. うみうし通信(30)：9-11, 2001.
- 小野真由美・久保田信：クラゲの飼育にチャレンジ - 神秘の生命観を広げよう -. マリンアクアリスト(19)：68-73, 2001.
- 久保田信：和歌山県白浜町周辺は貝類の宝庫 - 黒潮貝類同好会に入会して - 付：会誌1-35号に記録された白浜町周辺海域産貝類リスト. 本覺寺杼貝(36)：25-42, 2002.
- 久保田信：日本のさまざまなジャンルの曲の歌詞に登用された腔腸動物. くろしお(21)：19-21, 2002.
- 久保田信：軟体動物が歌詞に登用された様々なジャンルの日本の曲. 本覺寺杼貝(37)：44-48, 2002.
- 久保田信：研究室・研究所めぐり 41. 京都大学大学院理学研究科・附属瀬戸臨海実験所. 遺伝 56(5)：94-96, 口絵, 2002.
- 樫山嘉郎・久保田信：クラゲ, コインの図案に登場. うみうし通信(35)：裏表紙, 2002.
- 久保田信：海洋生物が歌詞に登用された日本の唄. くろしお(22)：13-23, 2003.
- 久保田信：日本の唄の歌詞に登用されたクジラ目の曲とその心. 勇魚(39)：57-61, 2003.
- 久保田信：私の持っているクジラ類の本-その1. 勇魚だより(70)：2-3, 2003.

■海洋生物進化形態学分野

宮崎勝己：European Colloquium of Arachnology 参加記(2). 遊絲(6)：8-11, 2000.

II-5 報告書等

森林生物圏部門

■森林生態保全学分野

- Tokuchi N., Hirobe M., Kondo K., Prokushkin, S. A., Matsuura Y., and Kajimoto T.: N CYCLING AT A *LARIX* STAND IN TURKIA, CENTRAL SIBERIA-PRELIMINARY WORK-. Proceeding of GCCA4 International Meeting. 乾燥地研究所研究報告, 2003.
- 平山貴美子・寄元道徳・菊沢喜八郎：モジュールの動態に関する研究. - 京都と北海道における落葉広葉樹の葉フェノロジー比較 -. 平成11年度文部省国際共同研究経費大学等における地球圏-生物圏国際共同研究計画(後期)「陸域生態系の地球環境変化に対する応答」成果報告書：p.127-129, 2000.
- 寄元道徳・菊沢喜八郎：モジュール積算法による高木の着葉量の推定. 平成12年度文部省国際共同研究経費, 大学等における地球圏-生物圏国際共同研究計画(後期)「陸域生態系の地球環境変化に対する応答」成果報告書：p.120-125, 2001.
- 中西麻美・中島弘起・徳地直子・武田博清：タイ国北部のチーク植栽地における有機物供給および分解様式, 平成12年度科学研究補助金 特定領域研究(B)「陸域生態系の地球環境変化に対する応答の研究」研究成果報告書：142-146, 2001.
- 徳地直子・中西麻美・武田博清：乾燥熱帯地域の土壌中の窒素動態, 平成12年度科学研究補助金 特定領域研究(B)「陸域生態系の地球環境変化に対する応答の研究」研究成果報告書：138-141, 2001.

■森林資源管理学分野

矢部勝彦・玉井重信・安藤 信・岩間憲治・韓 太平・張 文軍・谷川寅彦：半乾燥地・乾燥地における耐塩性植物の生態学特性と土壤改善の可能性－ケイリュウの耐塩性機構と土壤特性について－. 日本生命財団研究助成金研究成果報告書：1-52, 2003.

安藤 信：平成14年度 八丁平植生調査報告（森林植生）：1-88, 2003.

■森林環境情報学分野

中島 皇：芦生の森と‘ナラ枯れ’, 2004.

里域生態系部門

■里山資源保全学分野

柴田昌三：近ごろ私のまわりに現れた竹達の珍しいふるまい. 富士竹類植物園報告 44：29-39, 2000.

柴田昌三・大澤直哉・中西麻美：都市近郊林の植生管理が小流域の環境および生態系に及ぼす影響（平成12年度河川環境管理財団・河川整備基金助成事業報告書）：210pp, 2001.

柴田昌三：都市近郊林の植生管理が小流域の環境および生態系に及ぼす影響. 第8回河川整備基金助成成果発表会概要集：4-5, 2001.

柴田昌三：緑化工における郷土種の扱い－樹林とササの視点から－. 第18回北海道植生建設業協会技術講演会資料：1-14, 2002.

柴田昌三：第4回中国竹文化節に参加して, 日本竹協会会報 3：1-2, 2003.

柴田昌三：里山環境－現状と未来－. 日本造園学会ランドスケープセミナー 里山生態系の調査手法と施工技術Ⅲテキスト：5-10, 2003.

柴田昌三(編)：都市近郊二次林における伐採等の人為攪乱による生物相及び森林環境への影響評価（科学研究費補助金基盤研究(C)(2)）研究成果報告書）：188pp, 2003.

中西麻美・中島弘起・徳地直子・武田博清：タイ国北部のチーク植栽地における有機物供給および分解様式. 平成12年度科学研究補助金 特定領域研究(B)「陸域生態系の地球環境変化に対する応答の研究」研究成果報告書：142-146, 2001.

徳地直子・中西麻美・武田博清：乾燥熱帯地域の土壤中の窒素動態. 平成12年度科学研究補助金 特定領域研究(B)「陸域生態系の地球環境変化に対する応答の研究」研究成果報告書：138-141, 2001.

中西麻美：伐採管理による地温, 林内雨および渓流水の変化. 平成12年度河川整備基金助成事業「都市近郊林の植生管理が小流域の環境および生態系に及ぼす影響」(代表：柴田昌三) 研究成果報告書：13-18, 2001.

Asami Nakanishi: Report to “Roundtable on Water and Forest” (Jap/Eng). Proceedings of Dialogue between the Ocean and the Freshwater Communities: Forests, River, Oceans and the Skies 水はめぐる, 森・川・海・空…：104-108, 2003.

■里地生態保全分野

梅本信也：郷土資源植物複合の適正保全するための新概念の提案. 2000年度「わかやま学21」地域連携推進事業成果報告書「紀伊半島における郷土資源植物複合の伝統的保全に関する研究」：2-9, 2001.

梅本信也：和歌山県土に伝承される資源植物名称. 2000年度「わかやま学21」地域連携推進事業成果報告書「紀伊半島における郷土資源植物複合の伝統的保全に関する研究」：10-12, 2001.

梅本信也・吉田元重：2000年度「わかやま学21」地域連携推進事業成果報告書「紀伊半島における郷土資源植物複合の

伝統的保全に関する研究」：13-28, 2001.

梅本信也・吉田元重・種坂英次：里山資源植物の伝統的利用と on situ 保全. 2000年度「わかやま学21」地域連携推進事業成果報告書「紀伊半島における郷土資源植物複合の伝統的保全に関する研究」：29-32, 2001.

梅本信也・中山祐一郎・山口裕文：採集から採種・系統育成の一般的技術と方法および問題点. “日本の重要雑草における標準系統の選抜育成. 平成11年度-平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究成果報告書”：2-11, 2003.

■河口域生態学分野

田中 克：沿岸性魚類の初期生活史と望ましい環境, 海域・海岸線における環境創造のための計画知識, NPO大阪湾研究センター技術者研修講座：pp.80-95, 2000.

田川正朋・田中 克：健苗性強化手法-内分泌生理に基づく強化. 平成12年度健苗育成技術開発委託事業研究報告：p.1-10, 2000.

山野目健・田川正朋：多回産卵魚マツカワにおける卵中甲状腺ホルモンの人為的操作の試み, および初期減耗に及ぼす効果の検討. 岩手県水産技術センター研究報告2巻：21-27, 2000.

田川正朋：フォトエッセイ研究室の動物達その6 ヒラメ *Paralichthys olivaceus*. JSCE Newsletter 98：21-22, 2000.

田川正朋・田中 克：卵質に及ぼす母体由来ホルモンの影響. 平成8~12年度健苗育成技術開発事業 研究成果の概要(総括報告書)：pp.64-79, 2001.

田中 克：平成11~12年度科学研究補助金(基盤研究B2)研究成果報告書：ヒラメ地域集団の生理生態的分化と遺伝的分化に関する研究：pp.1-120, 2001.

田川正朋：卵及び仔稚魚の適応生残に関する遺伝子機能の解明. 平成13年度水産育種の効率化基礎技術の開発後期報告書：p.327-331, 2002.

田中 克・中山耕至：ヒラメの遺伝的集団構造と地域的生理生態特性に関する研究. 平成13年度生態系保全型増養殖システム確立のための種苗生産・放流技術の開発研究成果報告書：p.52-53, 2002.

田中 克：栽培技術の根幹となる環境収容力：ヒラメ稚魚でのモデル的解析. 平成11~13年度科学研究補助金(基盤研究B1)研究成果報告書：pp.169, 2002.

田中 克：交雑個体群有明海スズキの遺伝的集団構造と両側回遊性. 平成13年度~平成14年度科学研究費補助金(基盤研究B2)研究成果報告書：pp.223, 2003.

■里海生態保全学分野

山下 洋・奥村 裕・鈴木敏之：仙台湾産有用魚介類における内分泌かく乱物質の生態的濃縮機構の解明. 農林水産業における内分泌かく乱物質の動態解明と作用機構に関する総合研究, 平成13年度研究報告：88-89, 2002.

山下 洋・栗田 豊：ヒラメ放流場の環境収容力に対応した適正放流手法の開発. 生態系保全型増養殖システム確立のための種苗生産・放流技術の開発, 平成13年度研究成果報告書, 独立行政法人水産総合研究センター：60-61, 2002.

高橋一生・杉崎宏哉・山下 洋・栗田 豊・神山孝史：ヒラメ(仙台湾~常盤北部沿岸域)漁場生産力変動評価・予測調査報告書(平成13年度), 独立行政法人水産総合研究センター：18-23, 2002.

■沿岸資源管理学分野

上野正博：平成12年度漁場油濁被害防止対策事業報告書. 生物学的油濁処理技術開発・効果的利用検討事業年次報告書.(財)漁場油濁被害救済基金. 2001.

上野正博：平成13年度漁場油濁被害防止対策事業報告書. 生物学的油濁処理技術開発・効果的利用検討事業年次報告書.
(財)漁場油濁被害救済基金. 2002.

上野正博：平成14年度漁場油濁被害防止対策事業報告書. 生物学的油濁処理技術開発・効果的利用検討事業年次報告書.
(財)漁場油濁被害救済基金. 2003.

基礎海洋生物学部門

■海洋生物系統分類学分野

岩永節子・大城直雅・久保田信：沖縄島における *Timoides agassizi* (刺胞動物門, ヒドロ虫綱) の大量出現. 平成11～12
年度海洋危険生物対策事業報告書, 沖縄県衛生環境研究所: 34, 2001.

■海洋生物多様性保全学分野

山本泰司：フナムシの飼育展示と成長. 技術職員研修 (第22, 23回) 技術 (研究) 発表報告集(7) : 37-40, 2000.

II-6 学会発表等

森林生物圏部門

■森林生態保全学分野

Tokuchi N., Hirobe M., Kondo K., Prokushkin, S. A., Matsuura Y., and Kajimoto T.: N CYCLING AT A *LARIX* STAND IN
TURA, CENTRAL SIBERIA -PRELIMINARY WORK-. GCCA4 International Meeting., 愛知県豊川市2003年11月.

Tokuchi, N., Fukushima, K., Mouri, K. and Ohte, N.: Changes of stream water chemistry after clear cutting using forest rotation.
American Geophysical Union, サンフランシスコ, 2003年12月.

Tokuchi N., Fukushima, K., Ohte, N. and Mouri, K.: Changing of stream-water chemistry after the disturbance of clear-cutting using
forest rotation as field laboratory. IUGG. 札幌市, 2003年7月.

Tokuchi, N., Fukushima, K., Mouri, K. and Ohte, N.: Changing of stream chemistry after the disturbance of clear cutting. IUGG.
Abstracts B340, 2003.

森下和路・寄元道徳：冷温帯林の優占的な低木3種の樹冠要素の可塑性. 第112回日林学術講集: 8, 2001.

寄元道徳・平山貴美子・菊沢喜八郎：天然スギのモジュールの形態, 構造及び形態. -成木と若木の比較-. 第112回
日林学術講集: 628, 2001.

高橋美雅・寄元道徳：自然下の光勾配に対する落葉性高木2種の樹冠と樹冠構成要素の反応. 第112回日林学術講集:
629, 2001.

平山貴美子・寄元道徳：芦生スギ・落葉広葉樹林におけるスギの実生更新の可能性. 第113回日林学術講集: 568,
2002.

森下和路・寄元道徳：地形変化に対する低木3種 (クロモジ, タンナサワフタギ, ツリガネツツジ) の空間分布と地上部
形態の反応. 第113回日林学術講集: 574, 2002.

松山周平・寄元道徳：雌雄異株性樹木 (カラスザンショウ) における開花・結実過程の性差と繁殖コスト. 第113回日林
学術講集: 575, 2002.

人見清香・寄元道徳：スギ・落葉広葉樹林におけるナツエビネのフェノロジーパターンと繁殖生態学的特徴. 113回日
林学術講集: 576, 2002.

- 森下和路・崑元道德：生育系の異なる低木3種（クロモジ，タンナサワフタギ，ツリガネツツジ）の斜面傾斜への地上部の対応様式．第115回日林学術講集：417，2004.
- 高橋美雅・崑元道德：異なる光環境に対する落葉性高木7種の若木の樹冠部の対応．第115回日林学術講集：431，2004.
- 保原 達・徳地直子・大手信人・中西麻美・勝山正則・金 秀珍・木庭啓介：マツ枯れのある森林集水域からの硝酸流出過程．第113回日林学術講集：69，2002.
- Ris Hadi Puruwant and Oohata, S.: Biomass and productivity of artificial teak forest in Indonesia. 11th Ann. Mtg. of Torical Ecological Society of Japan: 42, 2001.
- Ito, K., Ito, M., Kaku, T., Tanaka, S., Rinoie, O., and Oohata, S.: Comparison of soil from under 120woody species grown for 70years 1: Bioassay. Abstracts of World Congress on Allelopathy 3: 196, 2002.
- Ito, K., Ito, M., Kaku, T., Tanaka, S., Rinoie, O., and Oohata, S.: Comparison of soil from under 120woody species grown for 70years 2: Effects on floor vegetation. Abstracts of World Congress on Allelopathy 3: 197, 2002.
- Ito, K., Ito, M., Kaku, T., Rinoie, O., and Oohata, S.: Trees may control weeds around their trunks in non-competitive manners. Abstracts of WSSA 43: 19-20, 2003.
- 毛利浩一・西村和雄・大島誠一：スギ林の皆伐および再造林後の経過年数に伴う土壌水・渓流水の成分変動．第112回日林学術講集：222，2001.
- 人見清香・中島 皇・大島誠一：天然林流域から流出するリター量．第113回日林学術講集：616，2001.
- 中島 皇・大島誠一・竹内典之・山中典和・酒井徹朗：芦生幽仙谷天然林の動態(1)．－大面積調査区における6年間の枯死量と成長量－．第113回日林学術講集：596，2002.
- 中島 皇・大島誠一・人見清香：天然林からの流出物(3)．－平年の流出リター量と流出土砂量－．砂防学会研究発表概要集：260-261，2002.

■森林資源管理学分野

- 高橋絵里奈・竹内典之：東吉野村における永代木施業(II)，第111回日林学術講集：152-153，2000.
- 高橋絵里奈・竹内典之：東吉野村における永代木施業(III)，第112回日林学術講集：81，2001.
- 高橋絵里奈・竹内典之：東吉野村におけるスギ人工林の密度管理－間伐直後の林分のD-H関係－，第113回日林学術講集：25，2002.
- 松山知恵・竹内典之：11年生ミズメ人工林の林分構造と現存量，第113回日林学術講集：28，2002.
- 嶋田俊平・竹内典之：ヒノキ不成績造林地におけるヒノキと侵入広葉樹の成長解析－京都府美山町の24年生ヒノキ人工林を事例として－，第113回日林学術講集：29，2002.
- 中島 皇・大島誠一・竹内典之・山中典和・酒井徹朗：芦生幽仙谷天然林の動態(I)－大面積調査区における6年間の枯死量と生長量－，第113回日林学術講集：596，2002.
- 松山知恵・竹内典之：若齢広葉樹人工林の現存量，第114回日林学術講集：61，2003.
- 高橋絵里奈・竹内典之：長伐期による高品質大径材生産のための直径管理，第114回日林学術講集：289，2003.
- 坂野上なお・兼友素子：木造在来工法住宅の選択プロセスと工法イメージ．林業経済学会2002年度秋季大会，2002年11月，京都.
- 大澤篤弘・安藤 信・川那辺三郎：スギが混交する冷温帯若齢天然生林の保育技術(II)．第111回日林学術講集：151，2000.3.
- 清水良訓・安藤 信・酒井富久美・川那辺三郎：RAPD-PCRによるスギ伏条繁殖パターンの検討．第111回日林学術講集：195，2000.3.

- 太田志乃・安藤 信：暖温帯構成樹種のマツ枯れ後の成長特性．第112回日林学術講集：29，2001.3.
- 玉井重信・矢部勝彦・安藤 信・韓 太平・張 文軍・王 林和：塩生植物，木茎柳の群落構造．第112回日林学術講集：43，2001.3.
- 小林達明・手嶋茂晴・山中典和・玉井重信・山倉拓夫・安藤 信・フェルナンドペレイラ デアシス・アントニオ ロベルト リスボン デパウラ：ブラジル，リオ・グランデ・ド・ノルテ州パウ・ドス・フェロス村の土地利用とカーティンガー植生景観の関係．日熟生態会講：11，71，2001.6.
- 安藤 信・J. P. Kimmins・N. Robinson・M. Tsze：カナダ・BC州の海岸性ダグラスファー高齡二次林におけるヘムロック稚樹の更新状況．第114回日林学術講集：529，2003.3.
- 岩間憲治・矢部勝彦・玉井重信・安藤 信：塩類集積地の土壤環境と耐塩性植物の生態学的特性(1) -人工群落における一事例-．平成15年度農業土木学会講演要旨集：894-895，2003.7.
- 金子隆之・モンドリ谷研究グループ：芦生モンドリ谷16ha調査区と長期大面積研究．第115回日林学術講集：360，2004.3.
- 安藤 信・金子隆之・山崎理正・高柳 敦・山中典和・長谷川尚史・酒井徹朗・金子有子・大島誠一・竹内典之：芦生モンドリ谷集水域天然林16haの10年間の動態 -スギが混交する冷温帯下部天然林の地形による変化-．第115回日林学術講集：446，2004.3.
- 岡田泰明・呉 初平・清水良訓・安藤 信：芦生モンドリ谷集水域上部の林相区分 -スギが混交する冷温帯天然林における大面積調査地を用いて-．第115回日林学術講集：456，2004.3.

■森林環境情報学分野

- 中島 皇・大島誠一・竹内典之・山中典和・酒井徹朗：芦生幽仙谷天然林の動態(I) -大面積調査区における6年間の枯死量と生長量-，第113回日林学術講集：596，2002.
- 芝 正己・吉幸 朗・石川知明：持続可能な森林管理SFMのための空間配置と機能評価(I) -収穫計画と保全計画のリンク：概念と枠組み-，第112回日林学術講集：155-156，2001.
- 吉幸 朗・芝 正己・石川知明：持続可能な森林管理SFMのための空間配置と機能評価(II) -公社造林地をモデルとした解析事例-，第112回日林学術講集：157-158，2001.
- 稲葉 滋・ハンス・ルドルフ・ハイニマン・芝 正己：急傾斜地における林道開設のための岩掘削量予測モデル，第112回日林学術講集：237，2001.
- 石川知明・芝 正己：画像解析による空中写真からの詳細な林分情報抽出の試み，第112回日林学術講集：531，2001.
- Masami Shiba and Hans R. Heinimann: Effect of existing forest certification approaches on alternative silvicultural and harvesting strategies of plantation forests: opportunities or constrains to identifying the adaptive technical benchmark or thresholds on ground level practices?, Abstracts of International Seminar on New Roles of Plantation Forestry Requiring Appropriate Tending and Harvesting Operations: Abstracts of Presentation: 11 - 12, 2002.
- Akira Yoshikou, Masami Shiba and Tomoaki Ishikawa: A GIS-based interactive spatial decision support system for SFM-oriented alternative forest harvesting strategies in plantation forestry, Abstracts of International Seminar on New Roles of Plantation Forestry Requiring Appropriate Tending and Harvesting Operations: Abstracts of Presentation: 17 - 18, 2002.
- Masami Shiba: Effect of Ongoing Forest Certification Approaches on SFM-Oriented Management Strategies of Plantation Forests: Opportunities or constrains?, Proceeding of International Seminar on New Roles of Plantation Forestry Requiring Appropriate Tending and Harvesting Operations: Proceeding of Presentation: 96 - 107, 2003.
- Akira Yoshikou, Masami Shiba, and Tomoaki Ishikawa: A GIS-based interactive spatial decision support system for SFM-oriented alternative forest harvesting strategies in plantation forestry, Proceeding of International Seminar on New Roles of Plantation

- Forestry Requiring Appropriate Tending and Harvesting Operations: Proceeding of Presentation: 144 - 159, 2003.
- Masami Shiba: A GIS-based interactive Spatial Decision Support System (SDSS) for SFM-oriented alternative forest harvesting strategies in mountainous terrain, Proceeding of Austro 2003: High Tech Forest Operations for Mountainous Terrain: 1 - 10, 2003.
- 芝 正己・牧 大介：森林認証と森林利用・生産技術の連環性 - 技術への新たな要求 -, 第115回日林学術講集：109.
- 石川知明・石堂慶彦・山崎忠久・芝 正己・万木 豊：ボランティアのための間伐材簡易搬出法, 第115回日林学術講集：646, 2004.
- 芝 正己：FSC森林認証制度 - 森林の新たな価値連鎖創造への挑戦. 北大-京大-琉大連携水圏フィールド科学シンポジウム, 2003.
- 中島 皇・二村一男・馬渡和則・柳 直文・古本浩望・櫻木まゆみ：道東地域におけるエゾシカの食害と行動調査. - 京都大学北海道演習林における事例 -. 第111回日林学術講集：334, 2000.
- 中島 皇・山中典和：天然林流域からの流出物台風による出水後の溪床の状況と流出した岩石. 平成12年度砂防学会研究発表会概要集：94-395, 2000.
- 人見清香・中島 皇・大島誠一：天然林流域から流出するリター量. 第112回日林学術講集：616, 2001.
- 中島 皇・大島誠一・人見清香：天然林流域からの流出物, - 平年の流出リター量と流出土砂量 -. 平成14年度砂防学会研究発表会概要集：260-261, 2002.
- 中島 皇：天然林流域からの流出物. 北大・京大・琉球大3大学連携シンポジウム, 舞鶴水産実験所, 2003.
- 中島 皇：Debris from the natural forest watershed in mountain regions of Japan. 黒海東岸地域の交通と住居に関するシンポジウム, トルコ共和国トラブゾン, 2003.

里域生態系部門

■里山資源保全学分野

- Nakanishi, A., Shibata, H., Inokura, Y., Nakao, T., Toda, H., Sato, F., and Sasa, K.: Chemical characteristics in stem flow of Japanese cedar in Japan. 第6回酸性雨国際会議2000 (つくば市, 2000.12.10-16)
- 平田啓一・中西麻美・柴田昌三・大澤直哉：都市近郊林における小規模な除間伐が表層物質の移動に及ぼす影響. 第52回日本林学会関西支部・日本林業技術協会関西・四国支部連合会合同大会 (香川大学, 高松市, 2001.11.10)
- 中西麻美・中島弘起・武田博清：タイ国北部チェンマイのチーク植栽地における有機物供給と落葉分解様式. 第52回日本林学会関西支部・日本林業技術協会関西・四国支部連合会合同大会 (香川大学, 高松市, 2001.11.10)
- 保原 達・徳地直子・大手信人・中西麻美・勝山正則・金 秀珍・木庭啓介：マツ枯れのある森林集水域からの硝酸流出過程. 第113回日本林学会大会 (新潟大学, 新潟市, 2002.4.2-4)
- 牧野亜友美・森本淳子・柴田昌三・大澤直哉・中西麻美：都市近郊二次林における小面積伐採直後の木本植生の多様性の変化. 第33回日本緑化工学会研究発表会 (日本大学, 藤沢市, 2002.9.6-7)
- 中西麻美・平田啓一・境慎二郎・大澤直哉・柴田昌三：天然生ヒノキ二次林における伐採後の林地表層の状態の変化. 第53回日本林学会関西支部・日本林業技術協会関西・四国支部連合会合同大会 (愛媛大学, 松山市, 2002.10.26)
- 中西麻美：「海と淡水の間の対話 ～水はめぐる, 森, 川, 海, 空～」第3回世界水フォーラム・分科会 (国際海洋研究所主催) (パネリスト参加), (京都宝ヶ池プリンスホテル, 京都市, 2003.3.17),
- 中西麻美：「海と淡水の間の対話 ～水はめぐる, 森, 川, 海, 空～」分科会報告, 第3回世界水フォーラム・その他の分科会 (林野庁主催) 「水と森林円卓会議」, (大津プリンスホテル, 大津市, 2003.3.21)
- 牧野亜友美・柴田昌三・大澤直哉・中西麻美：都市近郊二次林における小面積伐採が木本植物の多様性に与える影響. 第114回日本林学会大会 (岩手大学, 盛岡市, 2003.3.27-30)

- 中西麻美・安川直樹・柴田昌三・酒井徹朗：自然観察会の参加者の森林に対するイメージの変容(I)．第114回日本林学会大会(岩手大学，盛岡市，2003.3.27-30)
- 安川直樹・中西麻美・柴田昌三・酒井徹朗：自然観察会の参加者の森林に対するイメージの変容(II)．第114回日本林学会大会(岩手大学，盛岡市，2003.3.27-30)
- 中西麻美・中島弘起・武田博清：タイ国チェンマイのチーク植栽地における無機態窒素の動態．第53回日本林学会関西支部・日本林業技術協会関西・四国支部連合会合同大会(広島県立女子大学，広島市，2003.11.8)
- 中西麻美：上賀茂試験地における里山生態系の保全に向けて．北大-京大-琉大連携水圏フィールド科学シンポジウム「森と里と海と生物」(京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所，舞鶴市，2003.12.8)
- 中西麻美：里から見た森・川・海・空．シップ・アンド・オーシャン財団第14回海洋フォーラム・ワークショップ「森・川・海・空のパートナーシップ」(パネリスト参加)(日本財団，東京都，2004.2.9)
- 柴田昌三：播種後1年半の間のモウソウチク (*Phyllostachys pubescens*) 実生の成長について，第111回日林学術講集：155，2000.
- 森本淳子・柴田昌三・長谷川秀三・井上富実香：二次林へ導入した野生ツツジ類の初期成長 - 直播き，ポット苗植栽，自生苗の移植の可能性 - ，日緑工誌 25(4)：333-338，2000.
- 大藪崇司・柴田昌三・新畑 学・森本幸裕・小橋澄治：全国10ヶ所のモデル擁壁を用いた緑化に関する実験的研究，日緑工誌 25(4)：355-360，2000.
- 故選千代子・柴田昌三・丸山 宏：京都市近郊二次林における植生管理後の階層構造の変化について，平成12年度日本造園学会関西支部大会要旨集：11-12，2000.
- 柴田昌三：モウソウチクの開花，結実とその後の開花植栽地の変化，平成12年度ササ研究会，2000.
- 境慎二郎・柴田昌三：のり面緑化における鳥類の種子散布に関する予備的研究 - 人工とまり木と疑似餌による鳥類の誘因効果について - ，日緑工誌 27(1)：351-354，2001.
- 柴田昌三：都市近郊林の植生管理が小流域の環境および生態系に及ぼす影響，第8回河川整備基金助成事業成果発表会～良好な河川環境をめざして～ 概要集：4-5，2001.
- 平田啓一・中西麻美・大澤直哉・柴田昌三：都市近郊林における小規模な除間伐が表層物質の移動に及ぼす影響，第52回日本林学会関西支部研究発表要旨集：2，2001.
- 故選千代子・森本幸裕・吉田博宣・柴田昌三：都市市街地における小規模緑地と鳥類の関係に関する研究．国際景観生態学会日本支部会報 6(2)：43-44，2001.
- 大藪崇司・柴田昌三・新畑 学・森本幸裕・小橋澄治：擁壁緑化における4樹種の生育評価 - 植栽後3年の気象要因の影響 - ，日緑工誌 28(1)：61-66，2002.
- 上村恵也・柴田昌三：自生ササ類の地下茎を用いたのり面緑化試験，日緑工誌 28(1)：240-243，2002.
- 牧野亜友美・森本淳子・柴田昌三・大澤直哉・中西麻美：都市近郊二次林における小面積伐採直後の木本植生の多様性の変化，日緑工誌 28(1)：286-289，2002.
- 中西麻美・平田啓一・境慎二郎・大澤直哉・柴田昌三：天然生ヒノキ二次林における伐採後の林地表層の状態の変化．第53回日本林学会関西支部研究発表要旨集：39，2002.
- 鈴木悠里・柴田昌三・田中和博・酒井徹朗：京都市市街地北部地域における活力度が高い樹木葉の色彩の評価，日緑工誌 29(1)：68-73，2003.
- 森本淳子・柴田昌三・長谷川秀三：野生ツツジ2種の種子発芽と実生の生育立地要求性 - 直播きによる野生ツツジ群落復元実験 - ，日緑工誌 29(1)：135-140，2003.
- 梁川俊晃・柴田昌三・上村恵也・徳永正夫・衣笠斗基子：表土マット移植工法を用いた法面緑化に関する調査研究，日緑工誌 29(1)：265-268，2003.

- 牧野亜友美・柴田昌三・大澤直哉・中西麻美：都市近郊二次林における小面積伐採直後の木本植物の多様性に与える影響。第114回日本林学会学術講演集：420, 2003.
- 中西麻美・安川直樹・酒井徹朗・柴田昌三：自然観察会の参加者の森林に対するイメージの変容(I)。第114回日本林学会学術講演集：433, 2003.
- 安川直樹・中西麻美・酒井徹朗・柴田昌三：自然観察会の参加者の森林に対するイメージの変容(II)。第114回日本林学会学術講演集：434, 2003.
- 中村彰宏・小林望美・村上健太郎・橋本啓史・牧野亜友美・柴田昌三・森本幸裕：近畿3府県におけるアオモジの分布とデジタルマイクロプロープによる樹齢推定。第114回日本林学会学術講演集：502, 2003.
- 牧野亜友美・森本淳子・柴田昌三・大澤直哉・中西麻美：里山構成樹種の萌芽特性。第34回日本緑化工学会大会研究交流発表会：21, 2003.

■河口域生態学分野

- 田川正朋・Christopher. L. Brown：テトラピア卵濾胞における甲状腺ホルモンの取り込み機構。2000年度日本水産学会春季大会。
- 岡田のぞみ・都木靖彰・青海忠久・田中 克・田川正朋：ヒラメ変態期の眼の移動に関与する骨および軟組織の電子顕微鏡観察。2000年度日本水産学会春季大会。
- 廣井準也・田川正朋・金子豊二・田中 克：海産・湖産アユふ化仔魚の海水耐性および体表塩類細胞の比較。2000年度日本水産学会春季大会。
- Dody D. Trijuno, Satoshi Shiozawa, Jun Hirokawa, Masatomo Tagawa, and Masaru Tanaka: Development and metamorphosis of coral trout *Plectropomus leopardus* with special emphasis on digestive and endocrine systems. 2000年度日本水産学会春季大会。
- 藤岡 崇・山口幹人・田中 克：石狩湾に出現するヒラメ天然稚魚の孵化時期および着底時期。2000年度日本水産学会春季大会。
- 梶 達也・辻 祥子・伊藤智幸・田中 克：南西諸島周辺海域から採集されたサバ型仔魚における鰾容積の日周変化。2000年度日本水産学会春季大会。
- 太田太郎・日比野学・中山耕至・磯田能年・木下 泉・田中 克：有明海湾奥部に出現するスズキ仔稚魚の日齢と成長。2000年度日本水産学会春季大会。
- 田中庸介・興石祐一・川崎大輔・富永 修・野上欣也・津崎龍雄・田中 克：若狭湾におけるヒラメ稚魚放流実験-XIV 浅海砂浜域周辺と沖側岩礁域におけるヒラメ稚魚の成長・摂餌の比較。2000年度日本水産学会春季大会。
- 小路 淳・前原 務・藤本 宏・岩本明雄・田中 克：瀬戸内海におけるサワラ仔稚魚の日間摂食量-2～天然仔魚の連続採集による推定～。2000年度日本水産学会春季大会。
- 小路 淳・藤本 宏・岩本明雄・田中 克：瀬戸内海におけるサワラ仔稚魚の日間摂食量-1～飼育実験による推定～。2000年度日本水産学会春季大会。
- 山口浩志・高井則之・上野正博・田中庸介・富永 修・田中 克・林 勇夫：若狭湾におけるヒラメ稚魚放流実験-15 炭素・窒素安定同位対比からみた放流海域の食物網構造。2000年度日本水産学会秋季大会。
- 磯田能年・太田太郎・日比野学・中山耕至・田中 克：有明海筑後川河口域におけるスズキ当歳魚の食性と成長。2000年度日本水産学会秋季大会。
- 小路 淳・藤本 宏・岩本明雄・田中 克：サワラ仔魚の摂餌開始期における魚類に対する選択的な捕食と飢餓耐性。2000年度日本水産学会秋季大会。
- 岡田のぞみ・都木靖彰・田中 克・田川正朋：眼の移動に異常を有するヒラメ稚魚の頭部組織の顕微鏡観察。2000年度

- 日本水産学会秋季大会。
- 橋本寿史・豊原治彦・木下政人・坂口守彦・岡田のぞみ・田川正朋・田中 克・鈴木 徹・横山芳博・水田 章・田畑和男：ヒラメの左右非対称性に関する分子生物学的研究－クローン魚を用いた解析。2000年度日本水産学会秋季大会。
- 建田夕帆・有滝真人・平井慈恵・田中 克：ヌマガレイ仔稚魚の発育，成長，および低塩分適応能力の発達。2000年度日本水産学会秋季大会。
- 青山光宏・小路 淳・村田 修・熊井英水・田中 克：異なった餌料条件下におけるマサバ仔稚魚の発育・成長。2001年度日本水産学会春季大会。
- 小路 淳・田中 克：サバ型仔魚における魚食性の特化：サワラの一貫した魚食性とマサバの柔軟な魚食性。2001年度日本水産学会春季大会。
- 原田靖子・原田慈雄・木下 泉・田中 克・田川正朋：幼形成熟性魚類シロウオ（ハゼ科）における甲状腺の発達と機能の検討。2001年度日本水産学会春季大会。
- 堀田又治・有滝真人・田川正朋・田中 克：ホシガレイの変態・着底過程－ヒラメとの比較。2001年度日本水産学会春季大会。
- 梶 達也・児玉雅章・荒井 寛・田川正朋・田中 克：ハガツオ仔魚の特異な消化系の発達。2001年度日本水産学会春季大会。
- 岡本 崇・小林牧人・二瓶義明・松本 建・田川正朋・渡部終五：コイ普通筋筋原繊維ATPase活性およびミオシン重鎖アイソフォーム遺伝子発現の季節変化。2001年度日本水産学会春季大会。
- 田川正朋：魚類の変態と初期生残。平成13年度新プロ公開シンポジウム。
- 大槻直也・田中庸介・富永 修・津崎龍雄・村上直人・田中 克：ヒラメ人工種苗が他魚種の摂餌に及ぼす影響の検討。2002年度日本水産学会大会。
- 小路 淳・田中 克：瀬戸内海中央部における仔稚魚の出現-2。砕波帯において採集された仔稚魚。2002年度日本水産学会大会。
- 小路 淳・前原 務・武智昭彦・谷川貴之・村田憲之・田中 克：瀬戸内海中央部における仔稚魚の出現-1。稚魚ネットにより採集された仔稚魚。2002年度日本水産学会大会。
- M. S. Islam・日比野学・太田太郎・田中 克：Distribution and gut contents of larvae and juveniles of Japanese temperate bass and some cooccurring species in Chikugo River estuary。2002年度日本水産学会大会。
- 和田敏裕・建田夕帆・有滝真人・平井慈恵・田中 克：ヌマガレイ仔稚魚期における低塩分適応と塩類細胞-1。発育に伴う塩類細胞の変化。2002年度日本水産学会大会。
- 建田夕帆・和田敏裕・有滝真人・平井慈恵・田中 克：ヌマガレイ仔稚魚期における低塩分適応と塩類細胞-2。稚魚期における飼育塩分による塩類細胞の変化。2002年度日本水産学会大会。
- 平井慈恵・田川正朋・金子豊二・田中 克：飼育水中イオンがスズキの鰓塩類細胞の分布に与える影響。2002年度日本水産学会大会。
- 北野 忠・秋山信彦・上野信平・原田靖子・田川正朋：飼育条件下でのシロウオの形態変化に伴う甲状腺ホルモン濃度の変動。2002年度日本水産学会大会。
- 岡田のぞみ・森田哲男・田中 克・田川正朋：変態が遅延していたヒラメ稚魚にみられた甲状腺系異常。2002年度日本水産学会大会。
- 田川正朋・梶 達也・木下政人・田中 克：ヒラメ孵化仔魚の死亡に及ぼす収容密度とタンパク質添加の効果。2002年度日本水産学会大会。
- 梶 達也・児玉雅章・荒井 寛・田中 克・田川正朋：卵白の添加による海産仔魚の浮上へい死防除の試み。2002年度

- 日本水産学会大会。
- 田川正朋：仔稚魚の生理生態研究と資源変動研究の接点，新プロ変動系ワークショップ「海洋生物の変動」。
- 原田靖子・原田滋雄・木下 泉・北野 忠・秋山信彦・田中 克・田川正朋：幼型成熟性魚類シロウオおよびハゼ科魚類ウキゴリにおける甲状腺系と消化管の発達過程，水産学会近畿支部会。
- 和田敏裕・有滝真人・田中 克：ホシガレイ稚魚の低塩分環境下における成長ならびにプロラクチンと塩類細胞の動態，2003年度日本水産学会大会。
- 夕部泰弘・平井慈恵・中山耕至・田中 克：スズキ属仔稚魚の低塩分耐性の比較－ヒラスズキを中心に，2003年度日本水産学会大会。
- 中山慎之介・益田玲爾・田中 克：マサバ仔稚魚における群れ行動の発達と情報の伝達，2003年度日本水産学会大会。
- 夕部泰弘・日比野学・原田慈雄・田中 克：若狭湾西部海域沿岸砕波帯におけるスズキ属2種の出現比較，2003年度日本水産学会大会。
- 高木建司・田中庸介・富永 修・山下 洋・田中 克：成育場によるヒラメ稚魚の成長差解明：推定される要因，2003年度日本水産学会大会。
- 亀甲武志・甲斐嘉晃・中山耕至：AFLP法によるヤマトイワナ，ニッコウイワナの遺伝的識別，2003年度日本水産学会大会。
- 原田靖子・桑村勝士・木下 泉・田中 克・田川正朋：幼型成熟性魚類シラウオの甲状腺系および消化管の発達過程，2003年度日本水産学会大会。
- 北野 忠・秋山信彦・上野信平・原田靖子・田川正朋：シロウオの形態変化に及ぼす甲状腺ホルモンの影響，2003年度日本水産学会大会。
- 平井慈恵・原田慈雄・田川正朋・田中 克：カマキリ稚魚の淡水適応に及ぼす水温の影響，2003年度日本水産学会大会。
- 岡田のぞみ・田中 克・田川正朋：ヒラメ変態期の外部形態変化における甲状腺ホルモンの部位特異的影響，2003年度日本水産学会大会。
- 梶 達也・土橋靖史・田中 克・田川正朋：飼育水への卵白添加によるクエ・マハタ仔魚の浮上へい死防除の試み，日本水産学会中国四国支部大会。
- 原田靖子・桑村勝士・木下 泉・田中 克・田川正朋：シロウオとシラウオ－幼型成熟的な2魚種における甲状腺系の発達過程，2003年度日本魚類学会年会。
- 亀甲武志・甲斐嘉晃・中山耕至：琵琶湖流入河川におけるイワナ遺伝的多様性の経時的変化，2003年度日本魚類学会年会。
- 甲斐嘉晃・坂井恵一・土居内龍・中山耕至・中坊徹次：遺伝的に同定されたメバル3種の稚魚期における形態的特徴，2003年度日本魚類学会年会。
- 田中 克・太田太郎・日比野学・上田拓史・磯田能年・MDイスラム・鈴木啓太・中山耕至：“大陸沿岸遺存生態系”仮説：有明海特産魚類の成立・維持機構，2003年度日本魚類学会年会。
- 井関智明・水野晃秀・太田太郎・中山耕至・田中 克：西日本沿岸域における外来種タイリクスズキの生態，2003年度日本魚類学会年会。
- 小路 淳・Elizabeth W. North・Edward D. Houde：チェサピーク湾奥部の高濁度水塊におけるホワイトパーチ仔魚の摂餌～物理環境と餌料生物密度の影響～，2003年度水産海洋学会。
- 小路 淳・田中 克：瀬戸内海中央部におけるサワラ仔魚の水平分布，餌料生物環境，成長および加入：1995年と1996年の比較，2003年度水産海洋学会。
- 田川正朋：カレイ類の変態に関する2つの時間軸，平成15年度新プロ公開シンポジウム。
- Hossain, M. A. R., M. Tanaka and R. Masuda: Does learning help Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*, juveniles to avoid its

- predator, kinsengani, *Matuta lunaris*? The 24th Larval Fish Conference, Alabama USA, November 2000.
- Trijuno, DD., Tanaka M., Shiozawa S., Yoseda K.: What is metamorphosis in teleost?: Case study in a grouper, coral trout *Plectropomus leopardus*. The 24th Larval Fish Conference, Alabama USA, November 2000.
- Hirai, N., Tagawa M., Yube Y., Hibino M., Tanaka M.: Development of euryhalinity in Japanese sea bass *Lateolabrax japonicus* and contribution of stepwise salinity decline to freshwater survival. The 24th Larval Fish Conference, Alabama USA, November 2000.
- Shoji J., Tanaka M.: What does induce early selection for fast growth during post-first-feeding stage in completely piscivorous larvae of Japanese Spanish mackerel, *Scomberomorus niphonius* (Scombridae)? The 24th Larvae Fish Conference, Alabama, USA, November 2000.
- Kamisaka, Y., Totland GK., Tagawa M., Kurokawa T., Tanaka M., Ronnestad I.: Ontogeny of Cholecystokinin-producing cells in the digestive tract of Atlantic halibut (*Hippoglossus hippoglossus*) larvae. International Symposium on Nutrition and Feeding in Fish. Miyazaki Japan, May 2000.
- Tagawa M., Brown CL.: Entry of thyroid hormones into tilapia oocyte. 4th International Symposium on Fish Endocrinology. Seattle USA, August 2000.
- Hirai N., Tanaka M., Tagawa M., Secor DH.: Osmoregulatory responses in striped bass *Morone saxatilis* larvae: survival, growth, yolk absorption, and development of chloride cells in body skin. International congress on the biology of fish. Aberdeen Scotland, July 2000.
- Hirai N., Tanaka M., Tagawa M., Secor DH.: Osmoregulatory responses in striped bass *Morone saxatilis* larvae: survival, growth, yolk absorption, and development of chloride cells in body skin. International congress on the biology of fish. July 23 - 27, Aberdeen, Scotland. (WWW.fishbiologycongress.org), Fish migration and passage: p.83 - 96.
- Tanaka M.: Three important viewpoints for further advances in ELH research- learned from 25 years experience. The 25th Larval Fish Conference, Sandy hook, NJ, USA, August 2001.
- Shoji J., Tanaka M.: Early appearance of piscivory of Pacific mackerel *Scomber japonicus* larvae and its significance as a survival strategy. The 25th Larval Fish Conference, Sandy hook, NJ, USA, August 2001.
- Kaji T., Kodama M., Arai H., Tagawa M., and Tanaka M.: Highly specialized development of the digestive system for piscivory in striped bonito *Sarda orientalis* larvae. The 25th larval Fish Conference. Sandy hook, NJ, USA, August 2001.
- Shoji J., Tanaka M.: Early appearance of opportunistic piscivory of Pacific mackerel *Scomber japonicus* larvae and its significance as a survival strategy. The 25th Larval Fish Conference, Sandy hook, NJ, USA, August, 2001.
- Muturo, D. B. and M. Tanaka: Growth performance of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* juveniles at different fish sizes, water temperatures and feeding regimes in the laboratory. 70th Anniversary of JSFS International Commemorative Symposium, Yokohama, October 2001.
- Hossain, M. A. R. and M. Tanaka: Compensatory growth response in juvenile Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*: effects of starvation and subsequent feeding. 70th Anniversary of JSFS International Commemorative Symposium, Yokohama, October 2001.
- Tanaka, Y., O. Tominaga, T. Tsuzaki and M. Tanaka: The factors influencing the growth and feeding of hatchery-raised Japanese flounder juveniles under various designs of experimental mass release. 70th Anniversary of JSFS International Commemorative Symposium, Yokohama, October 2001.
- Trijuno DD, Shiozawa S., Yoseda K., Tagawa M. and Tanaka M.: Metamorphosis in coral trout *Plectropomus leopardus*: morphology, biochemical and physiological aspects. 70th anniversary of the JSFS international commemorative symposium. Yokohama, October 2001.

- Hirai N., Tagawa M., Kaneko T., Secor DH, Tanaka M.: Freshwater adaptation in Japanese sea bass and striped bass: A comparison of chloride cell distribution during their early life history. 70th anniversary of the JSFS international commemorative symposium. Yokohama, October 2001.
- Kamisaka Y., Kurokawa T., Suzuki T., Totland GK, Ronnestad I., Tagawa M., Tanaka M.: Ontogenetic appearance and distribution of the digestive hormone, cholecystokinin (CCK) in fish. 70th anniversary of the JSFS international commemorative symposium. Yokohama, October 2001.
- Hashimoto H., Mizuta A., Okada N., Suzuki T., Tagawa M., Tabata K., Yokoyama Y., Sakaguchi M., Tanaka M., Toyohara H.: Japanese flounder, reversed, displays a randomization of metamorphic and visceral left-right asymmetries without correlation. 70th anniversary of the JSFS international commemorative symposium. Yokohama, October 2001.
- Shoji J., Maehara T., Tanaka M.: Can recruitment success/failure in an inherent piscivore, Japanese Spanish mackerel *Scomberomorus niphonius* (Scombridae), support match/mismatch hypothesis? 70th Anniversary of the JSFS International Commemorative Symposium. Yokohama, October 2001.
- Kaji T., Shoji J., Aoyama M., Tanaka M.: Highly specialized development of digestive system in piscivorous scombrid larvae. 70th Anniversary of the JSFS International Commemorative Symposium. Yokohama, October 2001.
- Tanaka M.: Critical biological issues for further successful stock enhancement in a Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. 2nd International Symposium on Stock Enhancement and Sea Ranching, Kobe, January 2002.
- Ueda, H., A. Terao, M. Hibino and M. Tanaka: How can planktonic copepods in river estuaries survive in a flood? 8th International Conference on Copepod. Keelung, Taiwan, July 2002.
- Tanaka M., Kawai S., Kurokawa T.: Early ontogeny of the digestive system in teleosts- Generality and variability. The 26th Larval Fish Conference, Bergen, Norway, July 2002.
- Okada N., Tanaka M., Tagawa M.: Bone development during the metamorphosis of Japanese flounder. The 26th Larval Fish Conference, Bergen, Norway, July 2002.
- Shoji J., Tanaka M.: Significance of prey fish for larval growth and survival of a piscivore, Japanese Spanish mackerel (*Scomberomorus niphonius*: Scombridae): Is the recruitment determined during the early larval period? The 26th Larval Fish Conference, Bergen, Norway, July 2002.
- Shoji J., Tanaka M.: Variability in larval growth of a piscivore, Japanese Spanish mackerel (*Scomberomorus niphonius*: Scombridae): implication for recruitment. 132nd Meeting of the American Fisheries Society, Baltimore, USA, August 2002.
- Kaji T., Kodama M., Arai H., Tanaka M., Tagawa M.: Prevention of surface death of marine fish larvae by addition of egg white into rearing water. Texas Chapter of the American Fisheries Society Annual Meeting. Galveston USA, January 2003.
- Islam Md H., Hibino M., Ohta T., Ueda H., Tanaka M.: Distribution and feeding habits of dominant fish larvae and juveniles related to a continental relict copepod in Chikugo estuary, Ariake Bay, Japan. The 27th Larval Fish Conference, Santa Cruz USA, August 2003.
- Tanaka M., Fujiwara K., Nemoto M.: Is stock enhancement an effective tool for recovering reduced aquatic resources? The 27th Larval Fish Conference, Santa Cruz USA, August 2003.
- Tanaka Y., Tominaga O., Tsusaki T., Tanaka M.: Feeding performance of released Japanese flounder juveniles in relation to variability of food availability. 27th Larval Fish Conference, Santa Cruz USA, August 2003.
- Shoji J., North E., Houde ED: Feeding, growth and mortality of white perch *Morone americana* larvae around the estuarine turbidity maximum of upper Chesapeake Bay: contrasting years. 27th Larval Fish Conference, Santa Cruz USA, August 2003.
- Wada T., Aritaki M., Tanaka M.: Effects of low-salinity on the growth and development of spotted halibut juveniles with reference to prolactin and chloride cells responses. The 27th Larval Fish Conference, Santa Cruz USA, August 2003.

Nakayama S., Masuda R., Tanaka M.: Development of schooling behavior in chub mackerel *Scomber japonicus* with emphasis on dietary condition and social transmission. The 27th Larval Fish Conference, Santa Cruz USA, August 2003.

Takeda Y., Wada T., Aritaki M., Tanaka M.: Ontogenetic development of freshwater adaptability in closely related flatfish: starry flounder *Platichthys stellatus*, stone flounder *P. bicoloratus* and their hybrids, The 27th Larval Fish Conference, Santa Cruz USA, August 2003.

Tanaka M.: A new integrative science for environments: Linkage of forest-human habitation-marine systems supporting a movement "The Sea Yearns for the Forest." 4th SEASTAR2000 workshop, Bangkok, December 2003.

基礎海洋生物学部門

■海洋生物系統分類学分野

上野俊士郎・河村真理子・佐々木克明・久保田信・山口麻美：最近のヒクラゲ（刺胞動物門：立方クラゲ綱）の出現と若干の生物学的観察。2001年度日本海洋学会春季大会，2001。

上野俊士郎・久保田信・築地新光子・河村真理子・藤井直紀・田名瀬英朋・檜山嘉郎・山本善万・興田喜久男：山口県阿武町奈古筒尾と和歌山県白浜町番所崎の沿岸域で見られたオキクラゲの多数個体の出現。2001年度日本海洋学会秋季大会，2001。

湊 宏・久保田信・土生紳吾：白浜町沿岸に漂着したオオクビキレガイ。南紀生物同好会平成13年度秋の研究発表大会，2001。

久保田信：不老不死のベニクラゲ（ヒドロ虫類）の生活史について。南紀生物同好会平成14年度秋の研究発表大会，2002。

河村真理子・白山義久・久保田信：田辺湾におけるヒドロクラゲ類の水平分布の季節変動とその生活史型の関係。2002年度日本プランクトン学会大会，2002。

岩永節子・大城直雅・久保田信：大型ヒドロクラゲ *Timoides agassizii* の大量出現と刺症被害。沖縄生物学会第39回大会，2002。

河村真理子・上野俊士郎・岩永節子・大城直雅・久保田信：沖縄本島におけるハブクラゲの成長と平衡石中の輪紋の関係。2002年度日本海洋学会秋季大会，2002。

Shin Kubota: Medusa release of *Eugymnanthea inquilina* (Leptomedusae, Eirenidae). 5th Workshop of the Hydrozoan Society in Geelbek, South Africa, 2003.

Shin Kubota: Distinction of two forms of *Turritopsis nutricula* (Hydrozoa, Clavidae) in Japan, and their ability of reverse to young hydroid from medusa. 7th International Conference on Coelenterate Biology, 2003.

Mariko Kawamura, Yoshihisa Shirayama and Shin Kubota: The seasonal change of planktonic coelenterate abundance at inner and outer sites of Tanabe Bay, Wakayama, western Japan. 7th International Conference on Coelenterate Biology, 2003.

Arei Kobayashi, Syunshirou Ueno, Mariko Kawahara and Shin Kubota: Expansion of geographical distribution of bivalve-inhabiting hydrozoans in the southwestern coasts of the Japan Sea. 7th International Conference on Coelenterate Biology, 2003.

久保田信：日本には2型（2種？）のベニクラゲ（ヒドロ虫綱，花クラゲ目）がいる－両者は“若返り”可能。2003年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会，2003。

■海洋生物進化形態学分野

Katsumi Miyazaki: Comparative morphology of the circulatory system in pycnogonids (Arthropoda, Pycnogonida). 18th International Congress of Zoology, 2000.

- 宮崎勝己・鈴木浩文：フタツメイソウミグモ・プロトニムフォン幼生の内部形態。日本節足動物発生学会第36回大会，2000。
- 金城その子・白山義久・和田 洋：ミトコンドリアDNA配列に基づくナガウニ科の系統関係と幼生骨格形態の進化。日本動物学会第71回大会，2000。
- 宮崎勝己：サンゴイソギンチャクに寄生するウミグモに関するいくつかの知見。日本節足動物発生学会第37回大会，2001。
- 宮崎勝己：サンゴイソギンチャクへのウミグモの内部寄生について。日本動物学会第72回大会，2001。
- 金城その子・和田 洋：ナガウニモドキ（ホンウニ目ナガウニモドキ科）の幼生形態と系統関係。日本動物学会近畿支部大会，2001。
- 金城その子・白山義久・和田 洋：ナガウニ科における幼生骨格の形態多様性と進化。東京大学海洋研究所ワークショップ「海洋の生命史：分子のアプローチの現状と展望」，2001。
- 金城その子・下出信次・白山義久・和田 洋：ナガウニ科のウニ類における幼生骨格形態の多様性と進化。日本進化学会第3回大会，2001。
- 金城その子・下出信次・白山義久・和田 洋：ウニ類における幼生形態の変異と野外での垂直分布との関係。日本ベントス学会第15回大会，2001。
- 松原未央子・小松美英子・和田 洋：分子系統から支持されるイトマキヒトデ科とニチリンヒトデ科の近縁性。日本動物学会近畿支部研究発表会，2001。
- 松原未央子・小松美英子・和田 洋：ミトコンドリアDNAと18S rDNAに基づくヒトデ類の分子系統学的解析。日本動物学会第72回大会，2001。
- Katsumi Miyazaki and Günther Pass: Morphology of the circulatory system in sea spiders (Arthropoda, Pycnogonida). 20th European Colloquium of Arachnology, 2002.
- 宮崎勝己・Günther Pass：フタツメイソウミグモ循環器官系の形態について。日本動物学会第73回大会，2002。
- Shota Kakoi and Hiroshi Wada: *Pax37* and molluscan shell diversification. BSDB and Genetics Society joint spring meeting on Evolution of Developmental Mechanisms, 2002.
- Mioko Matsubara, Mieko Komatsu and Hiroshi Wada: The expression of *Ets* homologue in starfish embryogenesis and the evolution of larval skeleton in Echinoderm. BSDB and Genetics Society joint spring meeting on Evolution of Developmental Mechanisms, 2002.
- 松原未央子・将口栄一・佐藤矩行・赤坂甲治・小松美英子・和田 洋：ヒトデ*Ets*相同遺伝子 (*ApEts*) の発現および棘皮動物の骨片形成に関与する分子間の関係性の進化。日本発生生物学会第35回大会，2002。
- 松原未央子・将口栄一・佐藤矩行・赤坂甲治・小松美英子・和田 洋：SM50転写制御機構から見る棘皮動物の骨片の進化。日本進化学会第4回大会，2002。
- 宮崎勝己・Günther Pass：フタツメイソウミグモ *Ammothella biunguiculata* の循環器官系：その形態と機能。日本節足動物発生学会第39回大会，2003。
- 宮崎勝己・牧岡俊樹：節足動物鋏角類における卵巣構造と卵形成様式の多様性と統一性について。日本動物学会第74回大会，2003。
- Sonoko Kinjo, Yoshihisa Shirayama and Hiroshi Wada: Phylogenetic relationships and morphological diversity in the family Echinometridae (Echinoidea, Echinodermata). 11th International Echinoderm Conference, 2003.
- 梶 昭太・和田 洋：二枚貝類の殻形態の進化及びその背景にある殻形成について。日本進化学会第5回大会，2003。
- 梶 昭太・和田 洋：二枚貝類の殻形態の進化及びその背景にある殻形成について。日本動物学会第74回大会，2003。
- 松原未央子・小松美英子・和田 洋：ヒトデ綱モミジガイ目の分子系統学的解析。日本進化学会第5回大会，2003。

三瀬武史・猪早敬二・工藤明・和田 洋：脊椎骨の進化：カタユウレイボヤPax1/9とメダカPax1の転写制御に着目したアプローチ。日本動物学会第74回大会，2003.

■海洋生物多様性保全学分野

金城その子・白山義久・和田 洋：ミトコンドリアDNA配列に基づくナガウニ科の系統関係と幼生骨格形態の進化。日本動物学会第71回大会，2000.

金城その子・白山義久・和田 洋：ナガウニ科における幼生骨格の形態多様性と進化。東京大学海洋研究所ワークショップ「海洋の生命史：分子的アプローチの現状と展望」，2001.

金城その子・下出信次・白山義久・和田 洋：ナガウニ科のウニ類における幼生骨格形態の多様性と進化。日本進化学会第3回大会，2001.

金城その子・下出信次・白山義久・和田 洋：ウニ類における幼生形態の変異と野外での垂直分布との関係。日本ベントス学会第15回大会，2001.

上野俊士郎・久保田信・築地新光子・河村真理子・藤井直紀・田名瀬英朋・檜山嘉郎・山本善万・興田喜久男：山口県阿武町奈古筒尾と和歌山県白浜町番所崎の沿岸域で見られたオキクラゲの多数個体の出現。2001年度日本海洋学会秋季大会，2001.

河村真理子・白山義久・久保田信：田辺湾におけるヒドロクラゲ類の水平分布の季節変動とその生活史型の関係。2002年度日本プランクトン学会大会，2002.

Mariko Kawamura, Yoshihisa Shirayama and Shin Kubota: The seasonal change of planktonic coelenterate abundance at inner and outer sites of Tanabe Bay, Wakayama, western Japan. 7th International Conference on Coelenterate Biology, 2003.

Sonoko Kinjo, Yoshihisa Shirayama and Hiroshi Wada: Phylogenetic relationships and morphological diversity in the family Echinometridae (Echinoida, Echinodermata). 11th International Echinoderm Conference, 2003.

●●● III. 学会と社会における活動 ●●●

森林生物圏部門

●併任・委員会委員等

芝 正己：三重県環境保全事業団技術顧問，三重県ビオトープ研究会幹事，森林認証制度研究会代表幹事，UFJ総合研究所森林経営コンサルティング指導員，富村環境研究事務所技術指導員，アマタ株式会社森林認証部門技術指導員

●学協会委員等

徳地直子：日本生態学会編集委員

竹内典之：日本林業技術協会京大支部長，同関西支部監査

●学会・講演会等開催（センター主催～共催）

中島 皇：京都大学フィールド科学教育研究センターシンポジウム「芦生の森と「ナラ枯れ」

●学会・講演会の開催（個人）

徳地直子：森・山・川を考える若手研究者の会，2003年10月

●地域貢献

徳地直子：和歌山県立有田中央高校清水分校「しみずタイム」講演

嵯元道徳：京都市立高等学校理科教員・自然観察教育研修講師（芦生研究林），公開講座「森のしくみと働き」講師（芦生研究林）

坂野上なお：大学等地域開放特別事業「ウッズサイエンス」（有田中央高校清水分校共催）講師

安藤 信：「世界文化遺産（京都）緩衝地帯の森林景観の回復・保全指針」に係わる森林景観の保全指針検討会及び調査

芝 正己：森林の新たな価値連鎖の創造－FSC国際森林認証制度－．京都大学木質科学研究所公開講座「森と木と生活」NPO法人 そまの会（滋賀県朽木村）所有森林模擬認証審査・森林管理指導吉川林業（山口県）所有森林模擬認証審査・森林経営管理指導気仙地方森林組合（岩手県）管理森林の森林認証・CoC技術指導SBC信越放送（ラジオ部門）出演：FSC国際森林認証制度について

中島 皇：芦生研究林公開講座地球環境子ども村自然体験教室（亀岡市生涯学習部）総合学習「由良川上流」（綾部市立豊里小学校）

竹内典之：公開講座「森のしくみと働き」講師

里域生態系部門

●併任・委員会委員等

山下 洋：京都海区漁業調整委員会委員，舞鶴市大学連携センター検討会委員，（独）水産総合研究センター水産工学研究所（生物影響検討WG委員，同調査検討委員会委員），水産庁（水産バイオテクノロジー適正利用検討会委員），学振（特別研究員等審査会専門委員），（独）科学技術振興機構（地域振興事業評価委員会委員）

柴田昌三：関西空港二期島埋立地植栽調査委員会委員長（株関西空港），高松塚古墳壁画緊急保存対策検討会ワーキンググループ委員（文化庁），緑の公共事業アクションプラン策定に係る政策検討会議委員（京都府），関西地域における植物資源のリサイクル技術に関する検討委員会委員及び幹事会幹事長（日本道路公団），グリーンマネジメント技

術委員会委員 (国土交通省近畿地方整備局), 井手町豊かな緑と清流を守る検討委員会委員長 (京都府井手町)

田中 克: 京都海区漁業調整委員会委員, 琵琶湖海区漁業調整委員会委員, 海洋生物環境研究所運営委員, 大阪湾周辺海域における水質と漁業生物への影響調査委員会委員, 漁場環境修復推進調査検討委員会委員, 関西国際空港環境監視検討委員会委員, 学位授与機構審査臨時専門委員, 独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所運営評価会議委員, 科学技術振興機構地域振興事業評価委員会委員, 日本学術振興会特別研究員等審査専門委員, 日本学術振興会科学研究費補助金審査会委員, 水産庁水産バイオテクノロジー適性利用検討委員会委員

●学協会委員等

田中 克: 日本水産学会 (理事, 学会賞選考委員, 水産増殖懇話会委員, 近畿支部評議員), 日本水産増殖学会 (評議員), 日本水産海洋学会 (幹事), 日本魚類学会 (評議員, 平成 15 年度日本魚類学会実行委員), Journal of Applied Ichthyology (編集委員), 6th International Flatfish Ecology Symposium (大会委員長), Journal of Applied Ichthyology (editorial board), Aquatic Living Resources (Scientific Advisory Committee)

山下 洋: 日本水産学会 (編集委員), 水産海洋学会 (学会賞委員)

柴田昌三: 日本造園学会 (企画委員会委員), 日本緑化工学会 (理事, 学会誌編集委員長, 環境林研究部会長, 学会賞選考委員会委員, 大会特集号編集委員会委員長), 竹文化振興協会 (研究誌編集委員会委員), 京都竹文化振興財団 (評議員), 森林再生支援センター (評議員), 竹資源有効活用コンソーシアム (アドバイザー), グリーン購入コンソーシアム (アドバイザー), 大阪CDMネットワーク (アドバイザー)

西村和雄: 財団法人自然農法国際研究開発センター理事, NPO有機農業認証協会理事長, NPO日本有機農業研究会幹事, 社団法人安全農産供給センター顧問, 国際協力事業団の海外研修生に対する講義 (年二回. 沖縄国際センターおよび兵庫国際センターにて), NPO地球デザインスクールにて毎月第二土日「ぐうたら農学校」講義と現地実習

山河重弥: 日本雑草学会 (和文誌編集委員)

上野正博: 日本水産学会 (報文審査員), 日本海洋学会 (教育問題研究部会委員)

梅本信也: 日本雑草学会 (学術活動と組織運営を考える会幹事, 用語委員会委員)

●学会・講演会等開催 (センター主催～共催)

北大-京大-琉球大連携水圏フィールド科学シンポジウム「森と里と海と生物」舞鶴水産実験所 2003.12.8 (山下・益田・上野)

京都大学フィールド科学教育研究センター創設記念シンポジウム「21世紀のフィールド科学」2003.11.7

●学会・講演会の開催 (個人)

柴田昌三: 日本緑化工学会環境林研究部会第9回研究会 (主催), 日本造園学会第8回ランドスケープセミナー (講師), 日本地盤工学会関西支部滋賀地域地盤研究会 (講師)

●学会賞等

中山慎之介・益田玲爾・竹内俊郎・田中 克: 日本水産学会 論文賞 (2003)

益田玲爾: 第2回国際栽培漁業シンポジウム ベスト口頭発表賞 (2002)

上坂裕子・田川正朋・田中 克: 日本水産学会創立70周年記念シンポジウム ベストポスター賞

中山慎之介・益田玲爾・田中 克: 第27回アメリカ水産学会仔稚魚研究会議 ベスト口頭発表賞

●地域貢献

柴田昌三：上賀茂試験地一般公開自然観察会「晩秋の里山を楽しもう」、高知県春野町里山再生委員会設立総会（講演），大阪産業創造館（講演），全日本竹産業連合会熊本大会（講演）

中西麻美：芦生演習林公開講座「森のしくみと働き」，上賀茂試験地一般公開自然観察会「晩秋の里山を楽しもう」

梅本信也：黒潮文化研究会・代表

田中 克：公開講座「森のしくみと働き」講師 2001年7月29日

田中 克：環境省有明海・八代海総合調査評価委員会ヒアリング 2003年9月25日

田中 克：滋賀県漁業協同組合連合会主催シンポジウム「魚が語る琵琶湖」にパネラーとして参加 2003年10月24日

基礎海洋生物学部門

●併任・委員会委員等

久保田信：和歌山県立自然博物館協議会委員

●学協会委員等

大和茂之：南紀生物同好会（編集委員）

和田 洋：日本動物学会近畿支部委員（2002-2003年度）

●学会・講演会等開催（センター主催～共催）

大和茂之・和田 洋・田名瀬英朋：公開講座「島島海の生物観察会（11月22日）」日本動物学会近畿支部・フィールドセンター共催

●学会賞等

和田 洋：平成13年度 日本動物学会奨励賞

●地域貢献

久保田信・田名瀬英朋・太田 満・山本泰司：水辺環境教室（12月6日）白浜町生活環境課主催（地元小学生と保護者52名）

●●● IV. 国際的活動 ●●●

森林生物圏部門

●国際研究プロジェクト

安藤 信：文部科学省 総合地球研究所共同研究員（乾燥地域の農業生産システムに及ぼす地球温暖化の影響）。

芝 正己：FSC Japan 設立準備WG Program (FSC International, Asia-Pacific Regional)。

●外国人客員研究員等

安藤 信：トルコ・チクロバ大学Mustafa Artar氏を（総合地球研）植生グループ共同研究員として招聘：2004.2/6-2/2（京都・鳥取）。

●海外訪問者

芝 正己：Iris Lingenfelder (DEFINIENS Imaging GmbH, Germany) 技術情報交換James Sandom (FSC Asia-Pacific Regional Office, United Kingdom) 検討会。

●招聘研究員

安藤 信：中国人留学生を研究生（呉初平）として受け入れ。

●海外フィールド調査等

安藤 信：乾燥地域の農業生産システムに及ぼす地球温暖化の影響（トルコ），2003.8/21-9/6。

芝 正己：森林管理・CoC認証システムの実態調査（ドイツ・スウェーデン・スイス）。

徳地直子：2003年9月 シベリア。

●出張研修

芝 正己：森林管理・CoC認証システムの海外実態調査（ドイツ・スウェーデン・スイス）。

IUFRO (International Union of Forest Research Organization) Division3 Mid-Term Officeholder's Meeting (Sweden).

Austro2003 International Conference (Austria).

IUFRO S3.06 Coordinator: officeholder COFE (Council on Forest Engineering, USA): membership International Editorial Board of International Journal of Forest Engineering, Canada (Canada).

徳地直子：2003年7月 アメリカ合衆国，アメリカ生態学長期研究会参加と生態学長期研究サイトの見学。

中島 皇：トルコ国黒海工科大学・黒海東岸地域の交通と住居に関するシンポジウム参加・講演および森林の見学と研究打ち合わせ。

里域生態系部門

●国際研究プロジェクト

田中 克：韓国南西沿岸域におけるスズキとタイリクスズキの同所的分布に関する研究，韓国，2003年。

山下 洋・田中 克：タイ国ブラパ大学（タイ湾奥部河口域の生物生産に関する調査）。

山下 洋・田中 克：タイ国ブーケット海洋生物センター（アンダマン海沿岸域における森里海連環共同研究）。

山下 洋・益田玲爾：タイ国トラン沿岸域フィールド調査 2003年度。

益田玲爾：アメリカハワイ（アクアカルチャー2004）。

●海外調査・国際学会等

柴田昌三：第4回中国竹文化節，第7回世界竹会議。

柴田昌三：インド・ミゾラム州における竹開花予定地予備調査，タイ・沿岸部における水系に関する予備調査。

西村和雄：ベトナム国におけるコーヒーの有機栽培の可能性について調査（社団法人日本国際民間協力会のJICAのODA法人枠で）。

中西麻美：総合地球環境学研究所・研究プロジェクト「アジア・熱帯モンスーン地域における地域生態史モデルの構築」に関するフィールド調査。

2003.6.12-2003.6.16：ビエンチャン（ラオス），バンコク（タイ）

2003.7.14-2003.7.29：ビエンチャン，ウドムサイ県（ラオス）

2003.9.9-2003.9.21：ビエンチャン，ルアンパバン県，ポンサリ県，ウドムサイ県（ラオス），バンコク（タイ）

2003.12.10-2003.12.20：ビエンチャン，ウドムサイ県（ラオス）

田中 克：第27回アメリカ水産学会仔稚魚研究集会（セッションコンビナー） Santa Cruz USA, August 2003.

田中 克：第4回SEASTAR2000ワークショップ（講演：タイ湾沿岸域における森里海連環学の展開），タイ王国バンコク市，Dec. 11-13.

●招聘研究員

2003年：JSPS外国人特別研究員2名（韓国，ニュージーランド）：招へい外国人学者1名（韓国）

●留学生

2003年：博士後期課程学生1名（バングラデシュ）

基礎海洋生物学部門

●在外研究等

宮崎勝己：オーストリア・ウィーン大学・動物学研究科，京大・ウィーン大間学術交流事業（2004年1月9日-2月10日）

●招聘研究員

JSPS外国人特別研究員1名（韓国）

●留学生

国費留学生1名（インド）

●●● V. 教育活動 ●●●

森林生物圏部門

●院生・学生（2003年4月現在）

研修員：平山貴美子

D3：毛利浩一・横山恭子・高橋絵里奈

D2：森下和路・リス・ハディ・プルワント・佃 誠玄

D1：高橋美雅

M2：松山周平・新井宏受・平山香織・嶋田俊平・藤野貴之・松山知恵

M1：福島慶太郎・尾崎健一郎・安井美樹子・中尾友一・尾崎敬子

4回生：近藤千真・上田実希・岡田泰明

研究生：伊藤幹二・呉 初平

●課題研究・修士論文・博士論文テーマ

・課題研究

岡田泰明：芦生モンドリ谷集水域上部の林相区分ースギが混交する冷温帯天然林における大面積調査地を用いてー

近藤千真：シベリアにおけるカラマツの物質生産に関する研究

上田実希：硝酸還元酵素活性を用いた針葉樹の窒素吸収量の推定

・修士論文

松山周平：ウルシ属2種（ヤマウルシ，ヌルデ）における季節的繁殖行動パターンと栄養成長及び経年的繁殖行動との関わり

福島慶太郎：森林の成立に伴う物質循環機構の変化に関する研究

平山香織：森林樹木が形成する土壌の性質～芦生における森林構成数種の樹幹下表層土の生理的・科学的特徴～

新井宏次：14Cを用いた森林土壌の年代測定に関する研究

嶋田俊平：森林ボランティア活動の意義に関する研究ー森林所有者の意識及び森林ボランティアの取り組みに着目してー

藤野貴之：簡易水分計付貫入試験機による含水率測定手法の確立

●講義・集中講義・実習（講義名と対象者，他大学の場合は大学名）

・全学共通教育

竹内典之：森林資源学セミナー（新入生向け少人数セミナー）

安藤 信：生物圏の科学ー生命・食料・環境ー（1～4回生）

中島 皇：原生的な森林の利用と管理（新入生向け少人数セミナー），森里海連環学実習（1～4回生）

・農学部

大島誠一：森林育成学（3回生），森林科学演習（4回生）

竹内典之：森林基礎科学IV（1回生），演習林実習I（2回生），雪氷学基礎論（3回生），演習林実習III（3回生），演習林実習IV（3回生），森林科学演習（4回生）

安藤 信：森林基礎科学IV（1回生），森林植物学（3回生），森林総合実習および実習法（3回生），森林科学演習（4回生）

芝 正己：森林科学実習Ⅳ（2回生）、森林管理システム及び応用技術論（3回生）、森林総合実習および実習法（3回生）、森林科学演習（4回生）

徳地直子：森林基礎科学Ⅳ（1回生）、森林科学実習Ⅳ（2回生）、森林育成学（3回生）、森林科学演習（4回生）

中島 皇：雪氷学基礎論（3回生）、森林総合実習および実習法（3回生）、食料環境経済学実習（3回生）、森林科学演習（4回生）

崙元道徳：演習林実習Ⅰ（2回生）、森林総合実習および実習法（3回生）、森林科学演習（4回生）

坂野上なお：森林総合実習および実習法（3回生）、森林科学演習（4回生）

・大学院

大畠誠一：森林育成学専攻演習、森林育成学専攻実験

竹内典之：森林情報学専攻演習、森林情報学専攻実験

安藤 信：森林育成学特論Ⅱ、森林育成学専攻演習、森林育成学専攻実験

芝 正己：森林情報学特論Ⅱ、森林情報学専攻演習、森林情報学専攻実験

徳地直子：森林育成学特論Ⅱ、森林育成学専攻演習、森林育成学専攻実験

中島 皇：森林情報学専攻演習、森林情報学専攻実験

崙元道徳：森林育成学専攻演習、森林育成学専攻実験

坂野上なお：森林情報学専攻演習、森林情報学専攻実験

・他大学・各種学校

芝 正己：情報処理学演習（京都府立大学）、森林生産環境学（愛媛大学）

中島 皇：フィールドワーク（京都造形芸術大学）、地域資源管理学演習（名古屋大学）

徳地直子：森林生態学特論（京都府立大学）、ウッズ・サイエンス（和歌山県立有田中央高校）

坂野上なお：ウッズ・サイエンス（和歌山県立有田中央高校）

里域生態系部門

●院生・学生（2003年4月現在）

D3：甲斐嘉晃・上坂裕子

D2：磯田能年・土居内龍・原田靖子・建田夕帆

D1：MD イスラム・井関智明・夕部泰弘・和田敏裕

M2：丸川祐理子・中山慎之介・渡邊 薫・井上健彦

M1：小林あや・鈴木啓太・高木健司・福田野歩人

4回生：武田 和・松田克洋

●課題研究・修士論文・博士論文テーマ

・課題研究

武田 和：日本周辺海域におけるヒラメの遺伝的集団構造

松田克洋：キジハタの活動性の日周変化

・修士論文

- 井上健彦：1新種を含むインド・太平洋産マエソ属 *Saurida undosquamis* 種群の分類学的研究
渡邊 薫：若狭湾砂浜域におけるヒラメ稚魚の夜行性捕食者の探索
中山慎之介：マサバ仔稚魚における視覚による情報伝達能力の発達
丸川祐理子：日本海におけるヒラメ稚魚の性比の地理的変異
小林あや：クロマグロ仔稚魚の耳石日周輪による成長と生残の解析
鈴木啓太：安定同位対比による有明海産スズキの回遊履歴解析
高木建司：成育場によるヒラメ稚魚の成長差とその要因の解析
福田野歩人：ヒラメの卵黄吸収期の死亡に対してふ化以前のハンドリングが及ぼす影響

・博士論文

- 甲斐嘉晃：フサカサゴ科魚類メバル複合種群の分類学的研究
上坂裕子：仔稚魚期における消化ホルモンコレヒストキニンの発現と動態
磯田能年：有明海産スズキの食性、成長、成熟に関する研究
土居内龍：イボダイ科魚類の系統分類学的研究
原田靖子：幼形成熟魚シロウオ及びシラウオの甲状腺系に関する研究
建田夕帆：ヌマガレイとイシガレイ仔稚魚の低塩分適応能力の発達に関する研究
Md イスラム：有明海産特産種仔稚魚の分布と食性に関する研究
井関智明：外来魚タイリクスズキの分布、成長、成熟に関する研究
夕部泰弘：ヒラスズキ仔稚魚の成長と食性に関する研究
和田敏裕：ホシガレイの初期生態と放流技術に関する研究

●講義・集中講義・実習（講義名と対象者、他大学の場合は大学名）

・全学共通教育

- 山下 洋：森里海連環学実習（1～4回生）、海洋環境と生物資源（新入生向け少人数セミナー）
西村和雄：生物圏の科学－生命・食料・環境－（1～4回生）、照葉樹林の構造と維持（新入生向け少人数セミナー）
山河重弥：南紀における里域生物調査実習（新入生向け少人数セミナー）
梅本信也：南紀における里域生物調査実習（新入生向け少人数セミナー）、森林資源学ゼミナール（新入生向け少人数セミナー）、森里海連環学実習（1～4回生）

・農学部

- 田中 克：資源生物科学概論Ⅲ（2回生）、海洋生物生態学（3回生）、海洋生物資源学演習（4回生）
山下 洋：資源生物科学概論Ⅲ（2回生）、資源生物科学基礎実験（2回生）、海洋生物科学技術論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（2回生）
柴田昌三：緑地植物学（4回生）、森林科学演習（4回生）
田川正朋：資源生物科学基礎Ⅱ（1回生）、動物生理学（2回生）、資源生物科学基礎実験（2回生）、海洋生物科学技術論と実習Ⅰ（2回生）、海洋生物生理学（3回生）、資源生物科学実験及び実験法（3回生）、海洋生物資源学演習（4回生）
益田玲爾：海洋生物科学技術論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（2回生）
西村和雄：森林科学演習（4回生）
山河重弥：植生調査法と実習（3回生）
上野正博：海洋生物科学技術論と実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（2回生）

梅本信也：植生調査法と実習（3回生）

中西麻美：森林科学実習Ⅳ（2回生）

中山耕至：資源生物科学基礎Ⅱ（1回生），資源生物科学基礎実験（2回生），海洋生物科学技術論と実習Ⅰ（2回生），資源生物科学実験及び実験法（3回生），海洋生物資源学演習（4回生）

・大学院

田中 克：海洋生物増殖学特論，海洋資源生物学専攻演習，海洋資源生物学専攻実験

柴田昌三：森林育成学特論Ⅰ，森林育成学専攻演習，森林育成学専攻実験

田川正朋：海洋資源生物学特論，海洋資源生物学専攻演習，海洋資源生物学専攻実験

西村和雄：森林情報学専攻演習，森林情報学専攻実験

中西麻美：森林情報学専攻演習，森林情報学専攻実験

中山耕至：海洋資源生物学専攻演習，海洋資源生物学専攻実験

柴田昌三：（地球環境学舎）景観生態保全論，里山再生論，景観マネジメント野外実習

・他大学・各種学校

田中 克：水産資源学（滋賀県立大学）

山下 洋：水産資源学（滋賀県立大学），臨海実習（京都教育大学附属高校）

柴田昌三：緑化学概論（京都造形芸術大学），竹林の整備と竹の利用（福井県立農林水産大学校），法面緑化（淡路景観園芸学校）

益田玲爾：臨海実習（京都教育大学），資源培養のための栽培漁業（高知大学）

基礎海洋生物学部門

●院生・学生（2003年4月現在）

D5：嶋村（金城）その子

D4：栗原晴子

D2：三瀬武史

D1：川村真理子・梶 昭太・松原美央子

M1：小林亜玲

●課題研究・修士論文・博士論文テーマ

・博士論文

嶋村（金城）その子：ナガウニ科における幼生骨格形態の多様性と進化

栗原晴子：Effects of raised concentration of CO₂ on marine organisms.（二酸化炭素濃度の増加が海洋生物に与える影響）

●講義・集中講義・実習（講義名と対象者，他大学の場合は大学名）

・全学共通教育

白山義久：南紀における里域生物調査実習（新入生向け少人数セミナー）

・理学部

白山義久：海洋生物学 (2回生), 無脊椎動物学 (2回生), 臨海実習第1部 (2回生), 臨海実習第2～4部 (3回生)

久保田信：無脊椎動物学 (2回生), 臨海実習第1部 (2回生), 臨海実習第2～4部 (3回生)

大和茂之：臨海実習第1部 (2回生), 臨海実習第2～4部 (3回生)

宮崎勝己：臨海実習第1部 (2回生), 臨海実習第2～4部 (3回生)

和田 洋：臨海実習第1部 (2回生), 臨海実習第2～4部 (3回生)

田名瀬英朋：臨海実習第1部 (2回生), 臨海実習第2～4部 (3回生)

・大学院

白山義久：動物系統解析論A・B, 海洋生物特性論, 海洋生物学ゼミナール

久保田信：動物系統解析論A・B, 海洋生物特性論, 海洋生物学ゼミナール

大和茂之：動物系統解析論A・B, 海洋生物特性論, 海洋生物学ゼミナール

宮崎勝己：動物系統解析論A・B, 海洋生物特性論, 海洋生物学ゼミナール

和田 洋：動物系統解析論A・B, 海洋生物特性論, 海洋生物学ゼミナール

田名瀬英朋：動物系統解析論A・B, 海洋生物特性論, 海洋生物学ゼミナール

・他大学・各種学校

白山義久：公開臨海実習夏季・春季, 放送大学面接授業

久保田信：公開臨海実習夏季・春季, 臨海実習 (大阪市立大学), 生物学臨海実習 (大阪大学)

大和茂之：公開臨海実習夏季・春季, 臨海実習II (奈良女子大学), 臨海実験臨海実習演習1・2 (関西学院大学)

宮崎勝己：公開臨海実習夏季・春季, 生物実習 (滋賀県立膳所高校), 野外実習A-II臨海実習 (奈良教育大学), 臨海実習 (動物) (和歌山大学), 臨海実習 (兵庫県立尼崎小田高校)

和田 洋：公開臨海実習夏季・春季, 生物実習 (滋賀県立膳所高校)

田名瀬英朋：公開臨海実習夏季・春季, 放送大学面接授業, 臨海実習 (植物) (和歌山大学), 臨海実習 (大阪教育大学), 野外実習A-II臨海実習 (奈良教育大学), 生物学夏季実習 (京都教育大学)